

## I 総括報告

地域の福祉を取り巻く状況は、地域課題、生活課題が多様化、深刻化してきており、地域の福祉力への期待はますます高まっている中で、本協議会は「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、個別支援（見守り、生活困窮、ひきこもり、高齢者・障がい者・児童に対する虐待）と地域づくりに継続して取り組みました。また、社会福祉法人として円滑で強固な組織運営と組織体制の強化に一層努め、特に、国から示された働き方改革への対応については、情報収集を進めながら計画的に取り組みました。並びに、新たな特定処遇改善加算については、改善要件の精査を行い改善に向けた検討を行いました。

平成 31（令和元）年度は、6月18日に発生した「山形県沖地震」への対応として、温海福祉センターを中心に市温海庁舎、関係機関・団体と連携、協働しながら災害時における社協としての地域支援、個別支援に努めました。同時に、10月に発生した台風19号への災害支援として、宮城県大崎市社協、並びに丸森町社協それぞれの災害ボランティアセンターに職員延べ73人（実人数25人）を派遣して支援を行い、災害時の支援のあり方を体験する機会となりました。

地域福祉の推進については、地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2015」に基づいた取組を進め、特に、地域福祉を進める新たな仕組みづくり、また、個別支援と地域づくりを進めるための体制強化に努めました。

高齢者福祉事業及び障がい者福祉事業の推進については、「第二期 事業経営計画」に盛り込まれた取組を計画的に実施し、高齢者、障がい者サービスの充実、安定した事業経営に努めました。また、同計画における取組として実施した「ひかり輝く☆取り組みコンテスト<sup>1</sup>」の発表会を通じて、働きがいのある職場づくりを考える機会となりました。

児童福祉事業については、「発展・強化計画（第2期）」に基づいた取組を進め、地域における子どもの健全育成を視点に、保育園、児童館、学童保育所及び放課後児童クラブそれぞれの運営の更なる充実に努めました。また、保育園において、新たに病児保育事業を開始しました。

### 重点事業

#### (1) 法人運営の充実・強化

「発展・強化計画（第2期）」の進行管理に努め、特に、事務局体制の見直し、強化、本部事務局移転の検討を進めました。また、監事並びに会計監査法人からの指導のもと、財務規律の強化、ガバナンスの強化を図りました。

---

<sup>1</sup> ひかり輝く☆取り組みコンテスト：施設などにおける業務改善や地域貢献、サービス向上などの取組活動の発表の場を設け、お互いの成果を認め合い、達成感と働きがいのある職場づくりを進めるもの。

## (2) 地域福祉活動の推進

地域福祉活動計画における、住民主体による地域福祉活動を推進するとともに、コミュニティソーシャルワーク<sup>2</sup>機能の強化に努めました。また、地域支え合いプランを地域の関係団体等と協力して計画的に実施しました。

社会福祉法人連携による地域における公益的な取組については、新たに障がい福祉サービス事業を実施している法人との情報、意見交換を行い取組への一助としました。

## (3) 自立相談支援事業と権利擁護活動の推進

生活課題を抱える方や生活困窮の方など様々な相談に対応し、関係機関等と連携を図りながら課題解決、支援に努めました。また、新たな生活支援サービスとして、保証問題を支える仕組みづくりについて検討を進めました。

新規事業である生活困窮者就労準備支援事業（市委託）については、特に、就労に必要な基礎能力形成について支援を行いました。さらに、支援事業所等とのネットワークの構築に努め、就労支援の基盤整備を図りました。

## (4) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の充実

「第二期 事業経営計画」に基づいた事業の推進、評価、課題解決に継続して取り組みました。また、各施設における公益的な取組については、地域の拠点施設として実施可能な取組について検討しました。

「共生型サービス」については、先駆的な取組を学び事業実施の可能性について検討しました。さらに、業務改善ソフト<sup>3</sup>導入を進めながら事務の効率化、サービスの充実に努めました。

## (5) 児童福祉事業の充実

保育園の事業運営については、各種研修会への参加を通じ専門職としての資質向上に努め、更に情報システムを導入するなど事務の効率化を進めました。また、くしびき保育園において、園児が体調不良の場合、緊急的な対応を目的とした病児保育事業を計画どおり開始しました。

児童館の事業運営については、関係各所との連携による子育ての情報収集、発信を進めながら、施設機能の拡充を図りました。また、5つの児童館が共同で研修会を企画、実施することで、相互の連携強化を図りました。

学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の事業については、安全面に配慮しながら子どもの発達段階に応じた支援を行いました。また、情報システムを活用した保護者との連絡体制の構築や保育料金の見直しなど計画どおり進めました。

---

<sup>2</sup> コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

<sup>3</sup> 業務改善ソフト：操作がシンプルで面倒な操作を覚える必要がなく、介護職員が簡単にストレスなく使うことができる。手書きによる業務が改善され、残業時間の削減が期待される。

## Ⅱ 法人運営

### 【平成 31（令和元）年度役員】

	職名	氏名
H31. 4. 1	会長	山木知也
	副会長	山口 朗、板垣壯典、阿部恵子
	常務理事	齋藤和也
	理事	畑山孝一、佐藤正明、佐藤 稔、成澤辰己、安達文一、齋藤榮三郎、武田憲夫、宅井洋子、工藤 精、澤邊みさ子
	監事	阿部 繁、長谷川 清、相澤康夫
	評議員	佐々木栄三、長南吉美、櫻井修治、平田充廣、佐藤藤重郎（H31. 4. 10 まで）、百瀬清昭、小林幸一、奥井 厚（R2. 1. 31 まで）、大塚捷一（R1. 11. 30 まで）、半澤正昭、榎本トヨ、遠藤 勉（R1. 11. 30 まで）、佐藤宥男（R1. 11. 30 まで）、五十嵐光雄（R1. 11. 30 まで）、齋藤秀雄、生田浩樹、武田功之、伊藤貫正、石川一郎、鈴木一成、後藤るみ、佐藤満子、佐藤重勝、小松金悦郎、岩浪武司、千田洋子、橋本廣美、加藤由喜子、平藤博巳、齋藤 積
R1. 6. 12	評議員	板垣吉徳、遠藤初男、菅原 司、加藤昌司、荘司 徹、菅原しづ子
R1. 6. 27 (一斉改選)	会長	山木知也
	副会長	山口 朗、板垣壯典、阿部恵子
	常務理事	齋藤和也
	理事	畑山孝一、白幡 俊、原田道芳、佐藤 稔、大井一昭、齋藤榮三郎、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、澤邊みさ子
	監事	長谷川 清、相澤康夫、佐藤満也
R1. 12. 27	評議員	佐藤新太郎、井上 実、難波久男、本間健一

## 1. 理事会・評議員会開催報告

### 第1回理事会 令和元年6月11日（火）

#### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 給食費改定に伴う関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告3 くしびき保育園運営規程の一部改正について

#### 【議事】

- 議第1号 平成30年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
- 議第2号 平成30年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について
- 議第3号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第4号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第5号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第6号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第7号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第8号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第9号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第10号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第17号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第19号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第20号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について
- 議第21号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和元年度第1回評議員会の開催について
- 議第22号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和元年度第2回評議員会の開催について
- 議第23号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第24号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について
- 議第25号 パソコン（ハードウェア）及びプリンター関連機器のリース契約について

## 第2回理事会 令和元年6月27日（木）

### 【議事】

- 議第26号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会会長の選定について
- 議第27号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について
- 議第28号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会常務理事の選定について
- 議第29号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員の選任について
- 議第30号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 議第31号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

## 第3回理事会 令和元年9月20日（金）

### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 給食費徴収等に伴う関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告4 放課後児童健全育成事業所第二学区学童保育所運営規程の一部改正について
- 報告5 消費税引上げに伴う関係事業所運営規程の一部改正について

### 【議事】

- 議第32号 継続による指定管理者の指定申請について

## 第4回理事会 令和元年12月18日（水）

### 【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 継続による指定管理者の内定について
- 報告4 理事検討班の検討経過について

### 【議事】

- 議第33号 令和元年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第34号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について
- 議第35号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員取扱規程の一部改正について
- 議第36号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員取扱規程の一部改正について
- 議第37号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

議第 3 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和元年度第 3 回評議員会の開催について

議第 3 9 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について

議第 4 0 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について

## **第 5 回理事会 令和 2 年 3 月 1 7 日（火）**

（書面決議）

### **【報告】**

報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告 3 指定就労継続支援事業所（B 型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について

報告 4 鶴岡市社会福祉協議会福祉有償運送実施要綱の一部改正について

### **【議事】**

議第 4 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について

議第 4 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について

議第 4 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

議第 4 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

議第 4 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

議第 4 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について

議第 4 7 号 共用型指定認知症対応型通所介護（指定共用型介護予防認知症対応型通所介護）事業所グループホームはちもり運営規程の廃止について

議第 4 8 号 老人デイサービスセンターふれあいの利用定員削減等に伴う関係規程の一部改正について

議第 4 9 号 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の制定について

議第 5 0 号 くしびき高齢者生活福祉センター運営規程の制定について

議第 5 1 号 令和元年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

議第 5 2 号 令和 2 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について

議第 5 3 号 令和 2 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

議第 5 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任について

議第 5 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和元年度第 4 回評議員会の開催について

議第 5 6 号 鶴岡市高齢者福祉センターおおやまガス大口契約について

議第 5 7 号 サーバー機器に関わるリース契約について

## **第 5 回理事会（追加議案提出） 令和 2 年 3 月 2 5 日（水）**

（書面決議）

### **【議事】**

議第 5 8 号 鶴岡市高齢者福祉センターおおやま施設長の解任について

議第 5 9 号 鶴岡市高齢者福祉センターおおやま施設長の選任について

## **第 1 回評議員会 令和元年 6 月 2 7 日（木）**

### **【報告】**

報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について

報告 3 給食費改定に伴う関係事業所運営規程の一部改正について

報告 4 くしびき保育園運営規程の一部改正について

報告 5 平成 3 0 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告について

報告 6 平成 3 0 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算について

### **【議事】**

議第 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 9 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 0 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

議第 1 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

議第 1 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

議第18号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会監事の選任について

## 第2回評議員会 令和元年6月27日(木)

### 【報告】

報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会会長、副会長、常務理事の選定結果について

### 【議事】

議第19号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

## 第3回評議員会 令和2年1月9日(木)

### 【報告】

報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告3 給食費徴収等に伴う関係事業所運営規程の一部改正について

報告4 放課後児童健全育成事業所第二学区学童保育所運営規程の一部改正について

報告5 消費税引上げに伴う関係事業所運営規程の一部改正について

報告6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について

報告7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員取扱規程の一部改正について

報告8 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員取扱規程の一部改正について

報告9 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

報告10 継続による指定管理者の内定について

報告11 理事検討班の検討経過について

### 【議事】

議第20号 令和元年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について

## 第4回評議員会 令和2年3月27日(金)

(書面決議)

### 【報告】

報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について

報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

報告3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について

報告4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会嘱託職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について

- 報告 5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告 7 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 報告 8 共用型指定認知症対応型通所介護（指定共用型介護予防認知症対応型通所介護）事業所グループホームはちもり運営規程の廃止について
- 報告 9 老人デイサービスセンターふれあいの利用定員削減等に伴う関係規程の一部改正について
- 報告 1 0 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の制定について
- 報告 1 1 くしびき高齢者生活福祉センター運営規程の制定について
- 報告 1 2 指定就労継続支援事業所（B型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について
- 報告 1 3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会苦情解決に関わる第三者委員の選任について

#### 【議事】

- 議第 2 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について
- 議第 2 2 号 令和元年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 2 3 号 令和 2 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 2 4 号 令和 2 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

## 2. 監査実施報告

### 第 1 回監査 令和元年 5 月 2 9 日（水）

【内容】 平成 3 0 年度事業報告及び決算等に係る監査

### 第 2 回監査 令和元年 8 月 2 6 日（月）

【内容】 施設（櫛引すこやかセンター、櫛引福祉センター）訪問による監査（平成 3 1 年 4 月～令和元年 6 月期）

### 第 3 回監査 令和元年 1 1 月 2 8 日（木）

【内容】 平成 3 1（令和元）年度半期（平成 3 1 年 4 月～令和元年 9 月期）監査

### 第 4 回監査 令和 2 年 2 月 2 7 日（木）

【内容】 施設（中央児童館、地域福祉センターなえづ）訪問による監査（平成 3 1 年 4 月～令和元年 1 2 月期）

### 3. 会計監査人による監査実施報告

**期末監査** 令和元年5月12日(日)～5月14日(火)

令和元年5月20日(月)～5月22日(水)

【内容】 平成30年度計算書類及び財産目録の監査

**第1回期中監査** 令和元年12月2日(月)～12月6日(金)

【内容】 監査(平成31年4月～令和元年9月期)、施設訪問(とようら老人デイサービスセンター、はちもり)

**第2回期中監査** 令和2年3月23日(月)～3月27日(金)

【内容】 監査(令和元年10月～令和2年1月期)、施設訪問(高齢者福祉センターおおやま(大山児童館含む))

#### 4. 理事検討班実施状況

##### 法人運営検討班 令和元年9月20日(金)

【内容】 1. 発展・強化計画(第2期)に基づく検討事項について

##### 地域福祉検討班 令和元年9月20日(金)

【内容】 1. 生活困窮者自立支援制度における新規事業「就労準備支援事業」の活動報告  
2. 地域福祉課の組織再編後の活動状況報告  
3. 鶴岡市社会福祉協議会における地域福祉活動に対する意見交換

##### 事業経営検討班 令和元年9月20日(金)

【内容】 1. 施設経営について  
2. 第二期事業経営計画の進捗状況について

#### 5. 事業推進報告

- 4月 1日 辞令交付式(かたぐるま)  
11日 センター長会議(保健福祉センター)  
15日 車両リース入札会(かたりあい)  
落札者:オリックス自動車(株)山形支店  
落札金額:8,887,680円  
※事業推進課、なえづ老人デイサービスセンター、くしびき居宅介護支援センター、訪問介護事業所及び鶴岡地域生活自立支援センター5台分  
19日 社協広報「おだがいさま」入札会(保健福祉センター)  
落札者:(株)小松写真印刷鶴岡支店  
落札金額:1,043,539円  
23日 生活困窮者自立相談支援事業事務検査(保健福祉センター)  
24日 鶴岡市戦没者追悼式(荘内神社参集殿/138名)  
25日 第1回福祉サービス利用援助事業生活支援員会議  
(保健福祉センター/32名)  
5月 12日 会計監査人による期末監査①(～14日まで・保健福祉センター)  
20日 会計監査人により期末監査②(～22日まで・保健福祉センター)  
29日 平成30年度事業報告及び決算等に係る監査(保健福祉センター)  
31日 三役会議(保健福祉センター)  
6月 3日 介護職員初任者研修開講式(かたりあい/19名)  
6日 温海地域福祉委員会(温海ふれあいセンター)  
11日 第1回理事会(保健福祉センター)  
12日 第1回評議員選任委員会(保健福祉センター)

- 18日 南部児童館運営委員会（南部児童館）
- 20日 西部児童館運営委員会（西部児童館）
- 24日 令和2年度職員採用試験募集開始（～7月19日まで）  
事業経営会議（保健福祉センター）
- 25日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）  
高齢者福祉センターおおよま照明器具LED化工事入礼会  
（高齢者福祉センターおおよま）  
落札者：(有)マーケットクリエイト  
落札金額：2,557,440円
- 27日 第1回評議員会・第2回理事会・第2回評議員会（勤労者会館）
- 28日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
- 7月 2日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 11日 第1回法人後見運営委員会（保健福祉センター／13名）
- 17日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 22日 とようら老人デイサービスセンター空調設備改修工事入礼会  
（保健福祉センター）  
落札者：桜井管工業(株)  
落札金額：7,074,000円
- 24日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 25日 くしびき4保育園防犯カメラリース入礼会（かたりあい）  
落札者：庄内通信建設株式会社  
落札金額：1,859,760円  
苦情処理経過報告会議（保健福祉センター）
- 26日 朝日地域福祉委員会（朝日庁舎）
- 31日 羽黒地域福祉委員会（羽黒老人福祉センター）
- 8月 3日 職員採用一次試験（保健福祉センター／9名）  
9日 介護職員初任者研修修了式（かたりあい／19名）
- 21日 車両リース入礼会（保健福祉センター）  
落札者：オリックス自動車（株）山形支店  
落札金額：8,850,960円  
※なえづ老人デイサービスセンター、くしびき西部保育園、藤島福祉センター 5台分
- 22日 介護職員実務者研修通信課程スクーリング開始  
（かたりあい／10名）
- 26日 監査（令和元年4月～6月期・すこやかセンター／櫛引福祉センター）
- 9月 1日 職員採用二次試験（保健福祉センター／8名）
- 10日 三役会議（保健福祉センター）
- 19日 社協公開研修（出羽庄内国際村／152名）

- 20日 第3回理事会・理事検討班会議（保健福祉センター）
- 28日 鶴岡市社協職員研修会「車座トーク（51歳以上の職員対象）」  
（鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま／76名）
- 10月 3日 デイサービス合同音楽会（由良コミュニティセンター／114名）
- 10日 鶴岡市社協福祉のつどい（中央公民館／333名）
- 11日 デイサービス合同音楽会（出羽庄内国際村／135名）
- 17日 高校新卒者採用試験（保健福祉センター／1名）
- 18日 鶴岡市社協職員研修会（中央公民館／177名）
- 19日 職員内部登用一次試験（保健福祉センター／15名）
- 23日 高齢者福祉センターおおよまスチームコンベクションオープン  
入札会（高齢者福祉センターおおよま）  
落札者：東北環境開発株式会社  
落札金額：1,243,000円  
高齢者福祉センターおおよま防犯カメラリース入札会  
（高齢者福祉センターおおよま）  
落札者：リコージャパン(株)販売事業本部山形支社  
落札金額：1,531,200円
- 29日 鶴岡老人福祉センターまつり（鶴岡老人福祉センター／73名）
- 11月 6日 鶴岡市社協安全運転研修会（保健福祉センター／72名）
- 13日 山形県・県民福祉大会（荘銀タクト／851名）
- 19日 職員内部登用二次試験（保健福祉センター／15名）
- 22日 第2回福祉サービス利用援助事業生活支援員会議  
（保健福祉センター／31名）
- 27日 西部児童館運営委員会（西部児童館）  
朝日地域福祉委員会（朝日庁舎）
- 28日 監事監査（保健福祉センター）
- 12月 2日 会計監査人による期中監査（～6日まで）  
（保健福祉センター・とようら老人デイサービスセンター・はちもり）
- 5日 大山児童館運営委員会（大山コミセン）  
無期労働契約説明会  
（保健福祉センター／月給制契約職員対象104名）  
公益的取組み情報交換会（障がい分野）（保健福祉センター／30名）
- 6日 南部児童館運営委員会（南部児童館）
- 9日 三役会議（保健福祉センター）
- 11日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
- 12日 暁光児童館運営委員会（暁光児童館）  
無期労働契約説明会  
（保健福祉センター／日給制・時間給制契約職員対象147名）

- 18日 第4回理事会（保健福祉センター）
- 27日 第2回評議員選任委員会（保健福祉センター）
- 1月 9日 第3回評議員会（保健福祉センター）
- 15日 温海地域福祉委員会（温海ふれあいセンター）
- 29日 第2回法人後見運営委員会（保健福祉センター）
- 2月 20日 管理職対象メンタルヘルス研修会（保健福祉センター／32名）
- 25日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 27日 監事監査（中央児童館・地域福祉センターなえづ）
- 3月 4日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
- 9日 三役会議（保健福祉センター）
- 10日 朝日地域福祉委員会（朝日庁舎）
- 11日 羽黒地域福祉委員会（羽黒老人福祉センター）
- 17日 第5回理事会（書面決議）
- 23日 会計監査人による期中監査（～27日まで）  
（保健福祉センター・高齢者福祉センターおおやま（大山児童館含む））
- 25日 第5回理事会（追加議案提出、書面決議）
- 27日 第4回評議員会（書面決議）
- 31日 退職辞令交付式（保健福祉センター）  
高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬業務入  
札会（高齢者福祉センターおおやま）  
落札者：(有)大滝商店  
落札金額：2,164,800円  
高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備等点検業  
務入札会（高齢者福祉センターおおやま）  
落札者：山形ニッタン(株)庄内支社  
落札金額：1,071,400円

## 6. 広報「おだがいさま」発行状況

- 第81号 4月1日発行
- 第82号 6月1日発行
- 第83号 8月1日発行
- 第84号 10月1日発行
- 第85号 12月1日発行
- 第86号 2月1日発行

### Ⅲ 組織運営

#### (1) 社会福祉法人としての適正な運営

理事会や評議員会、各種委員会等について、制度に則りスムーズに運営することができました。

監事及び会計監査人による指摘事項や指導内容に迅速に対応し、更に法人全体の組織ガバナンスの強化を図りました。

#### (2) 事務局体制の見直し・強化

平成 31（令和元）年度から営繕担当専門員を配置し、懸案となっていた施設の営繕についての的確な対応をとることができました。

労務管理については、各事業所の勤務形態が複雑・多様化しているため、システムの導入が思うように進みませんでした。

労働基準法等の改正に伴う働き方改革への対応については、担当職員を配置したことによりスムーズに対応することができました。

#### (3) 人材確保と育成の強化

予定していた役職等の階層別研修の開催には至りませんでした。年代別による職員交流による意見交換会を開催することができました。

また、「個人目標設定・実績評価表」「職務行動評価」「人事評価表」による取組については継続して実施し、人材育成の強化につなげることができました。

#### (4) 健全経営と経理事務の強化

監事と会計監査人による監査に的確に対応することで、より財務規律の強化や適正な経理事務に努めることができました。

投資計画等、施設の営繕計画については、営繕担当専門員の配置により具体的な計画作成を進めることができました。

行政からの補助、委託事業、指定管理事業については、継続して協議を行いました。

#### (5) 「発展・強化計画（第 2 期）」の推進

計画の各項目の進捗状況や課題を整理し、事務局体制や事務局本部の移転については、理事検討班会議で協議いただくとともに、本部事務局移転の具体的な要件などについても確認し進めることができました。また、研修など地域福祉活動計画や事業経営計画との連動により実施することができました。

<会員・会費の状況>

地域	会員区分		27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度
鶴岡	一般会員（世帯）		27,850	27,510	27,315	27,169	26,922
	賛助会員	個人	806	817	812	818	832
		事業所	461	440	443	431	414
	会費額		16,400,750	16,152,900	16,162,100	16,072,650	15,945,630
藤島	一般会員（世帯）		2,560	2,582	2,616	2,642	2,572
	賛助会員	個人	4	4	4	3	2
		事業所	60	54	43	37	28
	会費額		1,526,252	1,548,876	1,476,730	1,442,300	1,390,700
羽黒	一般会員（世帯）		2,040	2,002	1,969	2,020	2,037
	賛助会員	個人	4	5	4	3	3
		事業所	17	14	13	13	24
	会費額		1,078,000	1,050,000	1,031,500	1,062,500	1,097,500
櫛引	一般会員（世帯）		1,842	1,845	1,832	1,811	1,816
	賛助会員	個人	128	126	126	133	132
	会費額		1,049,000	1,048,500	1,042,000	1,038,500	1,040,000
朝日	一般会員（世帯）		1,162	1,173	1,135	1,123	1,102
	賛助会員	個人	4	5	4	4	4
		事業所	28	28	24	25	22
	会費額		721,000	703,500	691,500	669,500	638,000
温海	一般会員（世帯）		2,564	2,538	2,508	2,472	2,438
	賛助会員	個人	39	41	39	40	37
		事業所	62	59	58	60	59
	会費額		1,581,000	1,552,000	1,540,000	1,525,000	1,483,000
合計	一般会員（世帯）		38,018	37,650	37,375	37,237	36,887
	賛助会員	個人	985	998	989	1,001	1,010
		事業所	628	595	581	566	547
	会費額		22,356,002	22,055,776	21,943,830	21,810,450	21,594,830

<職員の状況>

(単位：人)

年 月	職員数	内 訳				
		正規	嘱託	契約 (常勤)	契約 (パート)	市派遣
H27.4	832	306	11	223	292	0
H28.4	823	306	12	220	285	0
H29.4	823	305	13	222	283	0
H30.4	835	303	12	201	318	1
H31.4	831	310	19	201	300	1
R1.5	835	310	17	205	302	1
R1.6	831	310	17	204	299	1
R1.7	832	309	17	207	298	1
R1.8	836	309	17	209	300	1
R1.9	834	308	17	207	301	1
R1.10	838	308	17	207	305	1
R1.11	835	308	17	206	303	1
R1.12	836	308	17	207	303	1
R2.1	833	308	17	205	302	1
R2.2	833	308	17	205	302	1
R2.3	833	308	17	205	302	1

<職員の給与の状況>

(令和2年3月31日現在)

項目 職位	平均年齢	平均 俸給月額	平均 勤続年数	人数	性別内訳	
					男	女
局長・次長・参事・課長級	58.3歳	329,917円	25.8年	6人	3人	3人
施設長・センター長級	55.2歳	297,286円	22.4年	21人	5人	16人
主査・係長級	51.9歳	253,567円	19.3年	30人	9人	21人
主任・副主任級	45.4歳	220,679円	16.1年	87人	23人	64人
主事級	38.3歳	197,575円	6.1年	165人	42人	123人
全 体	43.1歳	218,862円	11.7年	309人	82人	227人

<職員の資格取得状況> (令和2年3月31日現在)

資 格	人数
社会福祉士	45人
精神保健福祉士	5人
保健師	4人
看護師（正看・准看）	65人
理学療法士	5人
作業療法士	1人
介護支援専門員	112人
介護福祉士	275人
介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む）	302人

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験

		31(R1)年度	30年度	29年度	28年度	27年度
応募者数		25人	35人	45人	71人	51人
採用者数		16人	18人	15人	24人	10人
資 格	社会福祉士	0人	0人	2人	3人	1人
	介護福祉士	5人	9人	7人	9人	3人
	介護支援専門員	1人	1人	2人	4人	1人
	看護師（正・准）	3人	2人	2人	1人	3人
	その他	7人	6人	2人	7人	2人
退職者数		14人	15人	11人	16人	24人

<保有車両の状況>

(令和2年3月31日現在)

	バス	普通自動車	軽自動車	福祉車両	計
事務局	2台	4台	5台	3台	14台
福祉センター	2台	4台	1台	5台	12台
包括・支援センター	—	—	21台	—	21台
通所（高齢・障がい）	1台	1台	7台	44台	53台
訪問入浴	—	1台	—	—	1台
入居施設 （特養・グループホーム）	—	1台	—	5台	6台
訪問介護	—	—	24台	—	24台
児童・保育	3台	—	1台	—	4台
合 計	8台	11台	59台	57台	135台

## IV 事業運営

### 1. 地域福祉事業

#### (1) 総括

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」の実施 4 年目となり、重点課題に沿って事業を実施しました。地域を取り巻く環境として、人口減少・少子高齢化、人間関係の希薄化、社会的孤立等の中にあつて、地域づくりとともに個別相談支援が求められることから、地域福祉課を二係制にして、コミュニティソーシャルワークの機能の充実を図りました。

特に個別相談支援においては、社会的孤立状態にある方への支援について、地域住民及び関係機関との連携により本人が安心して生活できるよう支援しました。

また、地域づくりとして、福祉センターエリアでは「地域支え合いプラン」を地域住民や各関係機関とともに実行し、鶴岡地域においては、21 の学区地区の「地域支え合いプラン」策定に向けて平成 30 年度から、全体の研修会に加え、地区担当職員を中心に各学区地区の策定支援を行いました。

#### (2) 重点事業

##### ① コミュニティソーシャルワーク機能の充実

それぞれの地域を担当する職員が個別相談支援を行いやすくするために、一つの係を二つの係に分け、個別相談支援の強化を図り、複雑多様化した課題について関係機関の連携を深めました。

また、より身近な相談支援体制を構築するため、鶴岡地域生活自立支援センターと地域福祉課及び福祉センター職員の連携会議を開催しました。

特に、社会的孤立状態にある方については、地域住民との緩やかなつながりができるよう相談者の気持ちに寄り添い支援しました。

##### ② 福祉教育の充実

小中学校が取り組む福祉学習については、主に障がいや高齢の状態にある方の理解を深めることにより、一人ひとりの尊厳や互いに支え合うことの大切さを学ぶ支援を行いました。そのために、障がいのある方を講師としてその方の生活や考え方を学び、また、各地域に所在する社会福祉法人の協力のもと、地域包括支援センターの職員の講話を取り入れ、より具体的及び身近に福祉を学ぶ機会をつくりました。

「福祉教育プログラム」については、平成 31 (令和元) 年度の活動として、地域住民としての児童生徒とともに地域住民が主体となつて行うボランティア活動の支援の積み重ねを行い、平成 2 年度に策定する地域福祉活動計画に反映させることとしました。

### ③ 地域福祉活動計画及び地域支え合いプランの実施と進行管理

地域福祉活動計画については、重点事項の実施計画をもとに事業を推進するとともに、担当職員を中心に実施状況を把握して次期計画の策定方法を検討し、すでに策定している鶴岡地域以外の福祉センター地域における地域支え合いプランについては、地域福祉委員会を活用し進行管理を行いました。

鶴岡地域の21学区・地区の地域支え合いプラン策定については、それぞれの学区地区において、プロジェクト会議及び策定委員会、ワーキングチーム等によりプランの策定に向け進めており、関係機関との連携により地区担当職員を中心に、丁寧な支援を行いました。

<地域福祉活動計画の主な実施状況>

<p>重点事項 1</p>	<p><b>①広域コミュニティ組織単位の地域福祉推進体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学区・地区社協とコミュニティ振興会・自治振興会の統合による組織再編が進む中、地域福祉の充実に向けた協議</li> <li>平成31（令和元）年度中に2カ所検討し、うち1カ所は令和2年度に統合</li> <li>・藤島、羽黒、朝日、温海地域の各自治振興会等との連携事業の実施</li> <li>・櫛引地域（広域コミュニティ組織が組織されていない）の各集落単位に福祉部設置に向けた支援</li> <li>平成31（令和元）年度末 合計6カ所設置</li> </ul> <p><b>②おだがいさまネット活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡地域において住民主体の「見守りのネット活動」「支え合いネット活動」「福祉教育・学習活動」等の活動について助成金を交付し支援</li> <li>見守りのネット活動：第四学区</li> <li>支え合いネット活動：第三学区</li> <li>福祉教育・学習活動：第二学区・黄金地区</li> <li>その他の活動：五学区・六学区・栄地区</li> </ul> <p><b>③「ふくし座談会」の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉活動支援事業において、住民主体による座談会を支援</li> <li>・地域ケアネットワーク会議等も活用して、見守りに関する話し合い実施</li> <li>平成30年度 座談会 21件</li> <li>平成31（令和元）年度 座談会 29件</li> </ul> <p><b>④地域支え合いプランの作成・進行管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡地域においては作成を促進するための研修会や情報交換会の開催</li> <li>・鶴岡地域以外の5地域で、作成したプランに基づいた事業を推進</li> <li>・各地域福祉委員会で事業推進状況を確認、意見交換を実施</li> </ul>
<p>重点事項 2</p>	<p><b>①各相談支援窓口などが新たなニーズ把握と行政への働きかけを行いやすいシステムづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡地域の地域福祉課をおだがいさま企画係とおだがいさま推進係の二つの係に再編し、積極的に地域住民の生活課題等を把握できる体制を構築</li> </ul>

	<p><b>②介護者や障がい児・者などの当事者や当事者団体への支援の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅介護者の交流事業を継続して開催</li> <li>・老人クラブ、身体障害者福祉協会、育成会、民生児童委員協議会等 53 の団体へ助成支援</li> </ul>
	<p><b>③地域の課題に応じた新たなサービスや社会資源を開発する支援体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターが開催している地域ケア会議において、地域ケア推進担当者の一員として地域課題等について検討</li> </ul>
重点事項 3	<p><b>①ワンストップによる総合的な相談支援機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域庁舎エリアでは、温海、羽黒、朝日において、各地域の庁舎内に福祉センターが配置されワンストップによる総合的な相談支援機能の強化</li> <li>・櫛引地域は、庁舎に隣接する老人福祉センターに福祉センターを配置</li> <li>・藤島地域は、市民福祉課及び地域包括支援センターと毎月連携会議開催</li> </ul>

	<p><b>②生活自立支援センターの相談支援機能の拡充と「暮らしのセーフティネット」を構築するプロジェクトの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活自立支援センターへ新たに相談員 1 名の配置による相談支援機能の拡充</li> <li>・施設入所及び医療機関への入院、アパートへの入居の際の身寄りのない方への対応にあたり、病院・入所施設・生活保護のケースワーカー・不動産業者に対し実態調査を実施</li> <li>・保証人等の不在や死後の対応についての課題が明らかになり、今後、新たな仕組みや社会資源の必要性を確認（令和 2 年度に改めて検討）</li> <li>・生活困窮者等への就労支援の強化として、就労準備支援事業を受託</li> </ul>
	<p><b>③コミュニティソーシャルワーク実践のための体制整備・強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の地域ケア推進体制促進による実践</li> <li>・地域支援とともに個別の生活課題への相談支援を行うために、地域福祉課の組織再編実施</li> </ul>
重点事項 4	<p><b>①住民主体の地域福祉活動を担う新たな人材の発掘と育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・櫛引地域で、「人とひとをつなぐ地域づくり」研修会を実施</li> </ul>
	<p><b>②民生委員・児童委員、主任児童委員活動との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位民協定例会に、地域ケア推進担当職員が出席</li> <li>・市民協連合会の三役会及び理事会に生活支援課職員が出席して連携強化</li> </ul>
	<p><b>③市内の事業所との地域福祉活動の協働化の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労困難者の一般企業や福祉サービス事業所への就労体験の受入れとともに受入事業所及び関係機関との情報交換会として「企業交流会」を 2 回開催</li> <li>・就労準備支援事業利用者の「企業交流会」への参加による事業所の地域福祉活動の理解促進</li> </ul>

	<p><b>④社会福祉法人の地域貢献活動への支援と協働活動体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡地区特養連絡協議会<sup>4</sup> 法人による「地域における公益的な取組連絡会」の立ち上げによる活動促進</li> <li>・障害福祉サービス事業所による情報交換会を開催し公益的取組の理解促進</li> </ul>
重点 事項 5	<p><b>①福祉施設やNPO法人などと連携した、人材育成とボランティア活動の支援機能の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の活動周知と交流する機会の提供</li> <li>・ボランティア活動の支援としてボランティア団体へ助成金交付</li> </ul> <p><b>②地域のニーズに対応したボランティア活動の促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン要約筆記（手書き・パソコン）への開催協力</li> <li>・企業による除雪ボランティアの調整協力</li> </ul> <p><b>③社会的に孤立している人などへの社会参加の場づくりの促進・拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域での取組み 「ちょボラ場<sup>5</sup>」：鶴岡、藤島 「おしゃべり保健室<sup>6</sup>」：温海</li> </ul> <p><b>④災害ボランティアセンター設置・運営に関する事業の充実と、企業、事業所、団体などとのネットワーク構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31（令和元）年 6 月に発生した山形県沖地震において、被災者へのボランティア活動のコーディネートの実施</li> <li>・平時からの災害被災地支援における個人及び団体登録の必要性の確認 令和 2 年度に NPO によるネットワーク構築予定</li> <li>・災害ボランティアセンター連絡会とボランティアセンター運営委員会 合同で災害ボランティアセンターに関する研修会を実施</li> <li>・青年会議所と災害時の連携及び災害研修会への協力</li> </ul>
重点 事項 6	<p><b>①ボランティア体験学習プログラムの充実</b></p> <p><b>②学校における福祉学習の推進</b></p> <p><b>③社会人などに向けた福祉教育及びボランティア体験学習の推進</b></p> <p>※①～③を統合して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内 37 の小・中学校に福祉学習に関するアンケートを実施（平成 30 年度）</li> </ul> <p><b>④中学生・高校生などの社会参加と交流の機会や場の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡地域において「学生ちょボラ場」を実施</li> <li>・ボランティア交流会において高校生ボランティア活動紹介</li> </ul>

<sup>4</sup> 鶴岡地区特養連絡協議会：特別養護老人ホーム、地域包括支援センター等を運営している市内の 9 つの社会福祉法人（恵泉会、一幸会、思恩会、市社協、ふじの里、羽黒百寿会、櫛引福寿会、朝日ぶなの木会、あつみ福祉会）で組織し、定期的に情報交換等を行っている。

<sup>5</sup> ちょボラ場：ボランティアセンターを会場に、誰でも気軽に集まって手作り封筒やお手拭きタオル作成など、“ちょっとしたボランティア”をする場として定期的に開催している。

<sup>6</sup> おしゃべり保健室：温海庁舎の保健師と共に既存の公民館で行う訪問型の相談支援や情報提供の場。おおむね月 1 回程度開催している。

重点 事項 7	①「(仮称) つるおか権利擁護センター」の設置の検討など相談支援体制の充実 ・成年後見制度利用促進基本計画の勉強会を実施 (平成 30 年度)
	②成年後見制度利用支援の拡充 ・成年後見に関する意識調査の実施 (平成 28 年度)
	③虐待防止や虐待防止ネットワーク機能の充実 ・社協内の高齢、障がい、児童部門による虐待防止に係る取組情報交換会実施
	④障がい者の差別解消への啓発の推進 ・障害者差別解消法の理解促進のための研修会の開催、及び啓発活動実施 ・障がいのある方の芸術活動の発表の場の提供及び障がい者の芸術への市民の理解促進のために「障害者アート展」を開催

#### ④ 社会福祉法人連携による「地域における公益的な取組」の推進

社会福祉法人が連携して公益的取組を実施するために、鶴岡地区特養連絡協議会の会員である 9 つの社会福祉法人の担当職員により、各法人で行っている取組や課題について話し合う連絡会を開催しました。また、平成 31 (令和元) 年度初めて障がい福祉サービス事業を実施している 8 法人と情報交換を行い、公益的取組みの必要性や各法人で実施・検討している内容について確認を行いました。

#### ⑤ 災害時を想定した関係団体とのネットワークの強化

平成 31 (令和元) 年度は、6 月の「山形県沖地震」で被災地社協として、また、10 月の「台風 19 号」では宮城県内の被災地で災害ボランティアセンターへの支援を行いました。この災害対応を通じて、初動体制や市社協内外の連携について課題を確認しました。

特に、合併により広範囲になった当市では、社協本部と被災地にある福祉センターとの役割分担及び連携のあり方などを事前に準備しておく必要があります。さらに、随時連携してきた NPO 法人鶴岡災害ボランティアネットワークが、今回の対応を振り返り、鶴岡市で災害が発生した時に迅速にボランティアが協力できるように、企業・団体・個人が同 NPO 法人に事前に登録し、いざという時に災害ボランティアセンターと連携できる仕組みをスタートさせました。

### (3) 各福祉センターの地域福祉事業総括

#### ◇ 鶴岡福祉センター

学区・地区社協とコミュニティ協議会等との組織統合について、平成 31 (令和元) 年度は、2 つの学区・地区において検討を進め、令和 2 年度より 1 つの学区が新たに組織統合することとなり、結果、21 の学区・地区のうち 5 つの学区・地区が組織統合しました。

地域福祉推進体制については、少子高齢化及び人口減少の状況を踏まえながら、各学区地区の特性を生かした「地域支え合いプラン」の策定支援を通して、身近な地域で見守りや支え合い活動ができるよう地域づくりを進めました。

また、個別相談支援では、地域住民や友人との関係性の希薄化により社会的に孤立している方への支援について、地域住民及び民生委員、関係機関との連携により、本人が安心して暮らせるよう支援しました。

#### ◇ 藤島福祉センター

ふじしま地域支え合いプランの 4 つの重点目標に基づいた藤島地域の特色ある地域福祉活動として、「農福連携プロジェクト」に庄内農業高等学校と一緒に取り組みました。4 年目となる平成 31（令和元）年度は、参加者を地域の高齢者だけでなく、福祉施設や鶴岡地域生活自立支援センターの就労準備支援事業利用者などにも拡大して実施し、幅広く多くの方からの参加を得ました。

また、新たな取組として、高齢者が住み慣れた地域での生活を安心して続けられるよう、70 歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、外出支援と買い物支援の事業として「高齢者お出かけサポート事業」を実施しました。

福祉相談支援窓口については、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまと当センターの三者が毎月定期的に開催している「ふじしまつながりメンバーズ会議<sup>7</sup>」及び地域ケアふじしま連携会議を通して連携を密にし、地域住民の支援の充実に努めました。

小学生を対象としたサマーチャレンジについては、ボランティア活動を通じて福祉の心を醸成するための事業として 2 回開催しました。1 回目は「防災ボランティア活動について学ぼう！」をテーマにした内容で開催し、夏休みの自由研究にも使えるようにしたり、県防災学習館での防災体験や東北公益文科大学でボランティア活動についての授業を受けるなど、参加者が興味を持つ内容となるよう工夫しました。2 回目の「子どもや高齢者とふれあおう！」では、同日に別事業で開催していた地域交流農園で、地域の高齢者と一緒に農業ボランティア活動も行いました。結果、双方の事業に広がりを持たせることができ、参加者も例年より多い 21 名となりました。

ちょボラ場については毎月 1 回開催し、ケロちゃんタオルづくりなどを通して会話を楽しむなど、地域の集いの場となりました。

---

<sup>7</sup> ふじしまつながりメンバーズ会議：藤島福祉センター、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまの職員が藤島の地域福祉の取組について話し合う、月に一度開催している会議。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	・平成 31（令和元）年度藤島福祉センターの事業概要について ・ふじしま地域支え合いプランに係る取組などについて
第 2 回	・平成 31（令和元）年度藤島福祉センター事業の中間総括について ・次期ふじしま地域支え合いプランの策定について

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第 43 号（7 月 1 日発行）・第 44 号（10 月 1 日発行）・第 45 号（3 月 1 日発行）

◇ 羽黒福祉センター

地域支え合いプランについては、地域福祉委員会において「災害に強いまちづくり」と題してひとつの集落で行ったマニュアルの作成や避難訓練について発表し、防災についての意識付けとなりました。四つの自治振興会のうち、三つの自治振興会の福祉委員として福祉センター職員が会議や各事業に参加し、各地域との連携を図りました。

また、平成 31（令和元）年度初めての事業として、羽黒庁舎のロビーにておしゃべりしたり、福祉の情報等を発信する「いっぷくどうぞ」を開設し、多くの住民から来ていただき大変喜ばれました。

こころの健康づくり事業では、11 月 28 日にこころの健康づくり講演会を第 4 地区地域活動センターで実施しました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	・平成 31（令和元）年度羽黒福祉センター事業推進について ・羽黒思いやりプランについて
第 2 回	・羽黒地域支えあいプランの評価と次期策定についての説明と意見交換

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第 34 号（7 月 1 日発行）・第 35 号（3 月 1 日発行）

◇ 櫛引福祉センター

櫛引 21 地区に支え合いの仕組みをつくるのが「櫛引地域 地域支え合いプラン」の実行目標の一つとなっています。各地区に出向き、支え合いの仕組みづくりの話し合いや「地域支え愛研修」を実施し、支え合いの仕組みづくりを推進しました。

また、地区の活動内容や考え方を把握するために 21 地区の区長を対象にアンケート調査を実施し、全員より回答を得ました。

アンケート調査の結果については、概ね活動内容の考え方を把握できたものの、多くの

区長が平成 31（令和元）年度に交代したことや質問内容が分かりにくかったこともあり、回答内容に差が生じました。

また、民生委員・児童委員を対象に「ひきこもり」の現状についてアンケート調査を行ったものの、現状把握をした後の支援の困難さもあり、今後、関係機関と連携しながら対応を検討することとしました。

櫛引地域内の福祉関係事業所との連携事業も強化されています。特に「ふれあい福祉講座」や「櫛引地区内施設巡り」は地域の方にも喜ばれています。

小学生や中学生を対象に行う福祉学習も内容を検討しながら楽しく実施することができました。

櫛引老人福祉センターが地域の交流の場とともに、介護予防の活動の拠点として活用され、何でも相談できる窓口として、地域から信頼して頂けるように努めました。

#### <地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 31（令和元）年度各事業の重点計画について</li> <li>社会福祉法人が行う公益事業とは 櫛引地域に必要な公益的取組とは（グループ討議）</li> </ul>
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 31（令和元）年度の事業報告</li> <li>「くしびきささえ愛プラン」の 4 年間の活動報告と評価</li> </ul>

#### <広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第 43 号（6 月 1 日発行）・第 44 号（2 月 1 日発行）

#### ◇ 朝日福祉センター

策定から 4 年目を迎えた「朝日地域 地域支え合いプラン」の重点目標をより具体的に実行するために、3 地区のコミュニティセンターや、地域ケア推進担当者（朝日庁舎市民福祉課・保健師・地域包括支援センターあさひ・朝日福祉センター）と連携して、プランの進捗状況の整理や住民ニーズの把握を行いました。

特に、3 地区のうち 2 地区（中央地区・南部地区）の 18 歳以上の住民全員を対象に実施したアンケート調査では対象となる 33 自治会のうち、29 自治会 1,986 名からの回答を得て、「見守り」「生活支援」に対する住民ニーズの高さや、それらのニーズに対応できそうな担い手候補者の多さを把握することができ、今後の広域コミュニティエリアにおける見守り・生活支援活動を進める上での基礎データとすることができました。

地域活性化事業については、例年通り、そのほとんどが単発的な地域行事でしたが、地域支え合い活動を進めていくための基盤となる「出会い・ふれあいの場」を各地に広げていく一助とすることができました。

生活困窮や社会に馴染めない方などへの支援については、市民福祉課や地域包括支援センター、本庁福祉課生活福祉係、鶴岡地域生活自立支援センターくらしス等と連携し効果

的な支援ができるよう努めました。

<地域福祉委員会開催状況>

	主な内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"><li>・平成31（令和元）年度福祉センターの事業概要について</li><li>・地域支え合い活動に関するアンケート調査について</li><li>・平成31（令和元）年度朝日地域福祉基金について</li><li>・遊具等整備事業について</li></ul>
第2回	<ul style="list-style-type: none"><li>・遊具等整備事業について</li><li>・令和元年度福祉センター事業の中間総括について</li><li>・地域支え合い活動に関するアンケート調査について</li><li>・地域福祉基金を活用した新規事業について</li><li>・地域支え合い研修会について</li></ul>

※地域福祉委員会と連動して地域福祉基金活用検討委員会を4回、コミセン事業調整会議を3回開催

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第9号（12月1日発行）・第10号（3月1日発行）

◇ 温海福祉センター

平成30年度に中間検証を行った「温海地域 支え合いプラン」の結果を踏まえ、できることから取り組みました。また、令和2年度からの次期「地域支え合いプラン」作成に向け、地区ごと実情に応じたプラン作成への取組方法を検討しました。

温海庁舎市民福祉課等の関係部署及びその他の関係機関との連携を強化し、支援困難ケースに対して制度や制度以外で効果的な支援ができるよう、これまでの地域ケア担当者会議に加え、高齢者以外の個別ケース会議を開催しました。

平成31（令和元）年度初めて、保健師の協力により「おしゃべり保健室」を開催しました。「おしゃべり保健室」では、就労になかなかつながらない人や他者との交流が苦手な人などに袋詰めなどのお手伝いをさせていただきました。

さらに、介護予防の取組として、各集落の状況把握に努めるとともに、語り広場<sup>8</sup>や出前型のぶらりカフェ<sup>9</sup>、買い物支援など、高齢者の交流や活動の場としての事業を実施しました。

福祉有償移送サービスについては、現サービスに限らず、活用できるサービスの情報収集に努めました。今後、集めた情報を必要な方にどのように提供するかを検討します。

<sup>8</sup> 語り広場：民生委員・児童委員の協力をいただきながら、介護予防と交流を目的に70歳以上の独居、二人暮らし高齢者を対象に行う、温海福祉センターの独自事業。

<sup>9</sup> ぶらりカフェ：高齢者をはじめ、誰もが気軽に立ち寄れる、地域に開かれた場所として、金融機関と温海庁舎の間の通路に定期的開催するほか、出前型として集落や大型スーパー内に開設し、介護相談等を行う。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31（令和元）年度温海福祉センター事業取組について</li> <li>・地域支えあいプランの取組について</li> </ul>
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31（令和元）年度温海福祉センター事業中間評価について</li> <li>・社会的孤立にある人への取り組みについて</li> </ul> クロスロード体験ワークショップ

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・臨時号（7月1日発行）第23号（1月1日発行）・第24号（3月1日発行）

**(4) 地域福祉事業**

◇ **地域福祉メニュー事業**

**福祉コミュニティづくり事業**

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として研修会や会議を開催しました。平成 31（令和元）年度は、初めてスキルアップ研修として、地域課題の把握や課題抽出の手法の一つである住民座談会の進め方や参加者の声の引き出し方について演習形式での研修会を開催し、地域支え合いプラン策定の促進を図りました。

① 鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

会議・研修名	期 日	主な内容	参加者
幹事会	6月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡委員会（6/14）への提案事項について</li> <li>・役員改選について</li> <li>・その他（平成 31 年度共同募金配分事業、学区・地区社協活動概要、鶴岡地域安心カード事業）</li> </ul>	15 人
	12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施に関する協議</li> <li>・その他（就労準備支援事業の事業説明）</li> </ul>	11 人
連絡委員会	6月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度事業報告並びに収支決算</li> <li>・平成 31（令和元）年度事業計画（案）並びに収支予算（案）</li> <li>・共同募金配分事業、学区・地区社協活動概要 他</li> </ul>	25 人
役員・コーディネーター等スキルアップ研修会	8月6日	スキルアップ研修会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演・演習「地域における対話の場づくり」 東北公益文科大学 教授 武田真理子氏</li> </ul>	41 人
	2月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演「日頃のつながりと災害対応」 法政大学現代福祉学部教授</li> </ul>	51 人

		日本地域福祉研究所 副理事長 宮城孝氏 ・情報交換（グループワーク） 「災害時に備えて、学区・地区で取り組んでいること」 「講演を聞いて思ったこと」 ・各グループの発表・まとめ	
--	--	--	--

## ② 学区・地区社会福祉協議会への活動支援

地域福祉推進基礎組織として重要な役割を担っている学区・地区社会福祉協議会に対して、地域福祉課の地区担当職員が、関係組織との連携や情報提供等による活動支援に努めました。

### <各学区・地区社協の特徴的な事業>

社 協 名	特徴的な事業
第一学区社会福祉協議会	住み良い街づくり推進事業
第二学区社会福祉協議会	認知症・介護者支援事業
第三学区社会福祉協議会	おだがいさま支え合いネット
第四学区社会福祉協議会	第四学区日常生活見守りネットワーク
第五学区社会福祉協議会	学区社協創立 25 周年記念事業
第六学区コミュニティネットワーク	認知症ケア事業（警察・金融機関との情報交換会）
斎地区社会福祉協議会	斎ほっとカフェ（認知症カフェ）
黄金地区社会福祉協議会	こがね地区見守りネットワーク
湯田川地区社会福祉協議会	会食サービス部による交流事業
大泉地区社会福祉協議会	大泉地区高齢者支援事業
京田地区社会福祉協議会	地域座談会・安心カード普及・推進
栄地区社会福祉協議会	栄地区「おらほのかるた」事業
田川地区社会福祉協議会	お茶のみサロン情報交換会
上郷地区社会福祉協議会	上郷にりんそうカフェ（何でも相談・地域交流）
三瀬地区福祉のまちづくり協議会	三瀬地区おだがいさま見守りネット
小堅地区社会福祉協議会	緊急時安否確認（鍵預かり）事業
由良社会福祉協議会	隣組福祉員による安心カードの更新・設置推進
加茂地区社会福祉協議会	ふれあいサロン活動
湯野浜地区社会福祉協議会	湯野浜まがしいり事業
大山社会福祉協議会	福祉協力員による新生児宅友愛訪問
西郷地区社会福祉協議会	新生児誕生お祝い訪問

## おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、さらに、地域福祉推進組織と地域関係団体等との地域ケアネットワーク会議等の開催を行い、地域におけるネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。また、チャイルドシートの貸出しや青色駐車場の整備等により、子育て家庭や障がい者等の社会参加に対する支援に取り組みました。

### ① おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区において、新たに取り組む住民主体の見守りのネットワーク構築や生活支援サービス、福祉教育の推進等の活動、また、ふくし座談会の実施に対し助成支援し、地域福祉活動の充実を図りました。

#### <活動の実施状況>

団体名	活動内容
第二学区社会福祉協議会	認知症・介護者支援事業
第三学区社会福祉協議会	第三学区おだがいさま支え合いネット活動
第四学区社会福祉協議会	第四学区地域見守り体制構築事業 「四学区日常生活見守りネットワーク」
第五学区社会福祉協議会	福祉安心見守りカードの普及活動事業
第六学区コミュニティネットワーク	高齢者ケア及び地域支え合い仕組みづくり
栄地区社会福祉協議会	栄地区「おらほのかるた」作成事業
黄金地区社会福祉協議会	生き心地の良い地域づくり

※平成 31（令和元）年度 7 事業 平成 30 年度 7 事業

<ふくし座談会の実施> ・平成 31（令和元）年度 29 件 ・平成 30 年度 21 件

### ② お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において、町内会・自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し、その活動費の一部を負担し地域の見守り活動への支援を図りました。

<助成件数> ・平成 31（令和元）年度 110 件 ・平成 30 年度 122 件

### ③ 福祉活動支援事業

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う各種活動において、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

(単位：箇所数)

福祉センター	サロン活動		住民福祉座談会等		ボランティア活動		人材育成		福祉研修・講座		地域福祉サービス等	
	H30	H31(R1)	H30	H31(R1)	H30	H31(R1)	H30	H31(R1)	H30	H31(R1)	H30	H31(R1)
藤島	21	25	1	1	1	—	—	—	2	2	—	—
羽黒	4	4	1	1	1		—	1	2	4	—	1
櫛引	5	6	—	—	2	1	—	—	1	1	—	1
朝日	9	10	—	1	—	—	—	—	—	2	—	1
温海	1	1	4	4	—		—		—		—	

④ おだがいさまネット活動推進事業

地域内の地域福祉推進組織や関係団体、協力事業所等と見守りの取組について共通認識を図るネットワークの構築や日常生活で困りごとを抱えている人への生活支援への取組として「おだがいさまネット活動」を推進し住民参加型活動の仕組みづくりと啓発に努めました。また、一人暮らし高齢者等の緊急時に備える安心カードの設置を消防本部との連携により支援し、住民の方々の安心した暮らしと地域の福祉活動の環境づくりを図りました。

<実施状況>

福祉センター	事業内容
鶴岡	<p>① おだがいさまネット活動推進事業</p> <p>「見守りネット活動」：見守りのネットワークを構築し啓発活動に取り組むことで、住民の方々の意識と共に地域力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の特性を踏まえ、地域ケアネットワーク会議等で日頃の見守りの必要性や地域でできる見守りなどについての話し合いを実施。</li> </ul> <p>「支え合いネット活動」：日常生活で困りごとを抱えている方に対して、課題解決のための生活支援の仕組みをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三学区おだがいさま支え合いネット 27年度～ 第三学区</li> </ul> <p>② 安心カード設置活動</p> <p>学区・地区社協等が実施主体となり 21 地区 4,726 世帯に設置、うち 19 地区 4,175 世帯分の設置者名簿を消防本部に提出。また、駆け付けた救急隊員の、より迅速な対応の補助的機能を目的とした「安心カードステッカー」設置のため、希望する学区・地区社協へ配布。</p>
藤島	<p>①ふじしま安心カードの設置：設置数 178 世帯</p> <p>町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。</p>

羽 黒	① 緊急連絡カードの設置：設置数 402 世帯 593 人（一人暮らし高齢者、高齢者世帯等）民生委員・児童委員の協力により実施。
櫛 引	① 支え合いネット活動：地区の中で困りごとを抱えている方に、地区の支え合いの組織が支援を行い、各地区への設置を目指す。 平成 31（令和元）年度まで 6 地区が組織化を行う。 ② 安心カードの設置数：世帯数 653 世帯 1,011 人 （櫛引庁舎が実施主体） 令和 2 年度は実施主体が櫛引福祉センターに変更予定。
朝 日	① 近所の支え合い 朝日あんしん見守り事業 上名川自治会：対象者 6 人、見守り隊：2 人 訪問活動 121 回 ② 黄色い旗運動 上田沢自治会：56 世帯（全世帯） ③ 安心カードの設置：設置数 276 世帯 441 人 自治会、民生委員・児童委員、地域包括支援センターあさひの協力により実施。
温 海	① 福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 427 世帯、二人暮らし高齢者 380 世帯、 高齢者のみ世帯 61 世帯、高齢者以外(障がい者等)3 世帯

⑤ 人にやさしいまちづくり事業

障がい児者や子育て世帯等が地域の中で安心してともに暮らしていく環境づくりや啓発の事業など、地域ニーズに対応した各種の活動・支援を行いました。

【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

活動内容	備考
チャイルドシート貸出し（16 台）	32 件
輪投げ等遊具貸出し（6 セット）	27 件
擬似体験セット貸出し（3 セット）	0 件
車イス貸出し（1 台整備）	6 件

【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て家庭等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、住民組織の代表や羽黒庁舎との連携により「こころの健康づくり推進事業」に取り組み、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

活動内容	備考
障がい者用駐車場(青色駐車場)の整備	2ヵ所
チャイルドシート貸出し(49台)	21件
車イス貸出し(3台整備)	7件
こころの健康づくり講演会の開催	58人
こころの健康づくり出前講座	2回

#### 【櫛引福祉センター】

子育てサポーター10名が子育て支援センターや各保育園において活動し、手作りのおもちゃを保育園へ寄贈しました。

子育てサポーターを対象とした研修では、小児救急医療、子育てと絵本について学びサポーターとしての質の向上に努めました。また、チャイルドシートの点検、清掃も行い気持ちよく利用して頂けるように努めました。

活動内容	備考
子育てサポーター研修・活動	8回
チャイルドシート貸出し(106台)	235件
車イス貸出し(10台整備)	34件
遊具の貸出し・その他	15件

#### 【朝日福祉センター】

障がいの有無に関わらず、音楽を通じて交流することを目的に、朝日手をつなぐ育成会とともに朝日有志の会で主催する「愛のふれあいコンサート」へ協力しました。今回は、これまでの開催内容を見直し、知的障がい者理解啓発団体(花笠ほ一ぶ隊)による講演・疑似体験の時間を設け、地域住民の障がい理解の一助としました。また、子育て世帯への支援としてチャイルドシート貸し出し、高齢者の生きがいをづくりを目的に、ワナゲ等遊具の貸出しを引き続き実施しました。

活動内容	備考
愛のふれあいコンサート・知的障がい者理解啓発講演等(会場:中央コミュニティセンター)	200人
チャイルドシート貸出し(15台)	12件
「聞こえませんカード」周知(29年度～)	事業所21件
疑似体験セット・輪投げ等の遊具の貸出し	12件

【温海福祉センター】

チャイルドシートについて、特に旧盆の頃の利用頻度が高いことから、今年度はジュニアシート2台追加し、移動中の安全と購入負担の軽減を図りました。

活動内容	備考
チャイルドシート(9台)・ジュニアシートの貸出し(2台)	30件
車イス貸出し(4台整備)	35件
バラ園入口スロープ整備・移動介助	延べ38人利用

⑥ 地域福祉担い手発掘・養成事業

鶴岡地域においては、鶴岡市と共催で地域福祉リーダー養成研修を実施し、地域支え合いプランの取組に合わせた、地域組織との協働による視点での活動展開について研修しました。

また、鶴岡地域以外の福祉センターでは、地域での見守り及び支え合い活動による地域づくりの研修会を実施しました。

<研修の概要>

年度	対象地域	開催月	主な内容	参加人数
31 (R1)	鶴岡	1月	鶴岡市地域福祉リーダー養成研修会 ～地域共生社会の実現に向けて～ 行政説明：国の動向及び鶴岡市の状況 講演：①地域共生社会に向けて ～住民の地域づくりの支援について考える ②住民の地域づくり支援のためのボランティアコーディネート グループワーク 講師：東北公益文科大学 教授 武田真理子氏	33人
31 (R1)	櫛引	1月	地域ささえ愛研修会 テーマ「人とひとつながり地域づくり」 ①地域支え合い活動の報告 朝日地区自治振興会事務局長 菅原和則氏 ②パネルディスカッション 朝日地区自治振興会事務局長 菅原和則氏 櫛引区長会 会長 小林幸一氏 櫛引民生児童委員 会長 井上実氏 ③対象 地域福祉委員、区長、民生児童委員、保健福祉推進員	47人



## ⑧ 仲間づくり交流事業

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進を目的とした講座等を、地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や生きがいがづくりに取り組みました。

### 【藤島福祉センター】

70才以上の一人暮らしであって買い物支援が必要な方へ、買い物支援とともに、外出の機会を創出し社会との接点を持ち続けられるよう外出支援としての機能をあわせもった複合型事業「高齢者お出かけサポート事業」を5回開催しました。

この事業では、民生委員及びボランティアの協力とともに、相談機能を持たせるため保健師の協力を得て、健康相談を行いました。さらに、運動等のメニューも取り入れ健康づくり及び介護予防にもつなげました。

### 【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、羽黒庁舎市民福祉課や地域包括支援センターはぐろと連携し、脳トレーニングや認知症、予防、企画協力を行い介護予防や健康増進を図るための支援を行いました。また、「なり元気塾」の開催から新たに「百歳体操」への移行支援を行い開催することができました。自由参加型サロン「ハッピー広場」への支援を行いました。

さらに、平成31（令和元）年度は、羽黒庁舎の一角を活用し、誰でも立ち寄れる場所として「いっぷくどうぞ」を開設し住民相互の交流を図ることができました。

### 【櫛引福祉センター】

櫛引地域の介護保険事業所と社協の事業所（デイサービス・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センター・福祉センター）の協働により「ふれあい福祉講座」を実施し、地区のお茶のみサロン等に出向き、楽しい仲間づくりを支援しました。また、「なりげんき塾」を2回地区で実施、いずれもその後のサロン活動に結びついています。

平成31（令和元）年度より開始した住民主体による住民参加型通所B「猫の手」は、参加者が多く、新規受入れが困難なほど好評を得ました。

### 【朝日福祉センター】

平成30年度に引き続き、朝日庁舎市民福祉課、地域包括支援センターあさひと連携してサロン活動の立ち上げ及び定着支援を行った結果、当センター等が把握するサロンは、16か所（計340回以上開催、延べ3,700人以上が参加）となりました。また、介護予防や生きがい、仲間づくりを図るため、2ヶ所で「なりげんき塾」を開催しました。

さらに、平成30年度「なりげんき塾」に参加した方々が、自主的な健康づくりサロンを開始するなど、なりげんき塾から住民主体の取組に発展しました。

#### 【温海福祉センター】

温海地域は人口の減少と高齢化が著しく、かつ、単身高齢者世帯が増加していることから、高齢者が健康を維持し、地域とのコミュニケーションを維持していけるよう語らい広場を3回（延べ144人参加）、なりげんき塾を2回（延べ318人参加）、ぶらりカフェ、福祉施設の車輛を活用しての買い物支援を12回実施しました。

また、温海庁舎市民福祉課、地域包括支援センターあつみと連携し地域に出向き、出前型ぶらりカフェ・脳トレクイズ・体操などを行いました。

#### 会食・配食・交流事業

在宅で生活している、一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や栄養管理、社会参加を進めることを目的に、コミュニティセンター、公民館単位で学区・地区社協、各福祉センターが実施する食事を伴う交流事業を支援しました。

#### 【鶴岡福祉センター】

学区・地区社協主催で、20カ所の学区・地区で主に月に1回程度実施しました。会食交流・配食事業に対する助成金の交付などの支援を行いました。この事業の開催にあたっては、民生委員・児童委員及び福祉協力員、調理ボランティア等地域の関係者の協力を得ながら一人暮らし等高齢者の交流の場となっています。

また、職員も講話やレクリエーション支援等を行うとともに、身近な相談窓口としての啓発活動を行いました。

#### 【温海福祉センター】

75歳以上の一人暮らし高齢者等へボランティア（あたたかグループ）が調理した「あたたか弁当」を届けました。弁当の掛け紙の絵やメッセージは地元の小学生が作成し、年1回、鼠ヶ関小学校にて交流会を行い、児童の皆さんは自分たちの掛け紙が実際に使われているお弁当を目にし、活動を知る機会となるとともに世代間交流ができました。

#### <会食交流会の実施状況>

年度	鶴 岡		藤 島 (ふれあい給食)		温 海 (あたたか弁当)	
	回数 (回)	人数 (人)	回数 (回)	人数 (人)	回数 (回)	人数 (人)
29	186	5,357	3	46	11	1,589
30	180	4,918	3	41	11	1,792
31 (R1)	169	4,676			11	1,892

※鶴岡地域の参加人数は配食人数も含む。

## 食の自立支援事業(市委託事業)

地域住民によるボランティア活動により、一人暮らし高齢者等への弁当配食を行い、栄養バランスの取れた食事を定期的に提供することにより、高齢者の健康を保持するとともに安否確認や話し相手など、地域の支え合い活動の支援を図りました。

<配食の実施状況>

年度	鶴 岡		朝 日	
	利用者数	配食数	利用者数	配食数
29	18 人	2,659	3 人	114
30	12 人	1,901	3 人	117
31(R1)	9 人	1,507	3 人	117

## 福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方を、通院や買い物などに出かけたいときに福祉車両（おおぞら号・ほほえみ号）で送迎する会員制の移動支援事業を行いました。

運転者を対象とした安全運転講習を計 3 回実施し、安全・安心な運行や利用会員の視点に立った運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。

また、この事業の維持継続を目的に利用料金の改定を実施し、さらに安全な運行管理の徹底を行うための検討を行いました。

<事業実績>

(単位：登録数→人、運行回数→回)

年度	鶴 岡		朝 日		温 海		合 計	
	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数
29	176	3,921	28	216	100	294	355	4,431
30	169	3,663	33	261	91	256	293	4,180
31 (R1)	123	2,580	31	162	77	243	231	2,985

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は、鶴岡・朝日・温海いずれかの福祉センターで対応

## 福祉ボランティアまちづくり事業

### (1) 鶴岡市ボランティアセンター運営

#### ① ボランティアセンター運営委員会の開催

時代の変化に合わせたボランティアセンター事業実施につなげるために、下記のとおり開催しました。

・第 1 回 令和元年 8 月 22 日 (木)

内容 1. 令和元年度事業推進について

- 2. 今後の予定について
- 3. 山形県沖地震の振り返り
- ・第2回 令和2年3月12日(火)
- ※新型コロナウイルス感染予防により中止

② ボランティアセンターの状況

<ボランティアセンター来館者数>

年度	合計	来館の主な目的
29	961人	ボランティア保険相談・申請、ボランティア依頼・登録等の相談、ボラセン事業手伝い、情報提供等
30	1,053人	
31(R1)	1,657人	

<ボランティア登録状況>

年度	個人	団体
29	67人	66団体
30	113人	65団体
31(R1)	79人	70団体

<ボランティアセンター依頼・相談件数。災害対応を除く> (単位：件)

年度	高齢	障がい	子育て	環境	地域	イベント	活動希望	その他	合計
29	23	10	18	1	7	16	20	16	111
30	26	16	11	1	9	5	15	9	92
31(R1)	37	21	12	4	3	7	16	15	115

◆特徴的な取組

- ・視覚障がい者「ガイドヘルプボランティア」活動。  
横浜市在住の全盲の方4名から、鶴岡市と酒田市を観光したいと、ガイドヘルプボランティアの依頼がありました。酒田市ボランティアセンターと連携し、鶴岡市から5名、酒田市4名それぞれボランティアを調整して活動を行いました。
- ・鶴岡市内の企業から、一人暮らし高齢者宅の除排雪ボランティア活動の相談が増加。  
平成30年度は1社、平成31(令和元)年度は5社から相談がありました。  
暖冬のため除排雪活動ができませんでしたが、その中の1社が訪問活動に変更して一人暮らし高齢者の話し相手や交流活動を行いました。

(2) ボランティア活動推進

① ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し、地域福祉力向上を図るため6団体へ助成金(計113,000円)を交付しました。

< 交付団体数（分野別） >

（単位：件）

年度	芸能	読み聞かせ	昔語り	学生	高齢者支援	障がい者支援	子ども子育て	避難者支援	その他	計
29	5	1	0	1	1	4	2	0	1	15
30	5	1	1	2	0	2	2	0	0	13
31(R1)	1	1	0	1	0	2	1	0	0	6

< 交付団体名 >

要約筆記おひさま、パソコン要約筆記はなまる、唄と踊りの三つ葉会、子どもたちの学びを支援する会、サロンおはなしの部屋、高校生ボランティアサークル「かだんこの会」

② 市ボランティア連絡協議会との連携

・ボランティア交流会

平成 30 年度に、鶴岡市で高校生ボランティアの紹介、一般ボランティアとの交流等を取り入れて開催した「ボランティア交流会」を参考にして、庄内地域全体の事業として鶴岡市ボランティアセンターが事務局となって取り組みました。特に、学生等の若い人たちの活動を知り交流をする機会をつくり、今後に向けて多くの参加者が関係づくりを行うことができました。

< 実施状況 >

年度	開催	場所	内容	参加人数
29	2 月	にこ♡ふる	活動発表（6 団体）、研修、体験、交流	62 人
30	2 月	にこ♡ふる	高校生ボラ活動紹介（4 校、1 サークル）、入門講座、体験、交流	57 人
31(R1)	11 月	なの花ホール	クロスロード、若者ボラ活動紹介（7 サークル）、交流、ゲーム、他 ※庄内地域広げようボランティアの輪連絡会議事業として実施	60 人

・ボランティア研修会

平成 30 年度に開催した、「居場所づくり研修会」で基礎的なことを学んだので、平成 31（令和元）年度は、具体的に居場所のつくり方を学ぶ「居場所のつくり方講座」と、居場所づくり活動の財源確保に役立つ「助成金活用講座」を開催する予定で準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症予防に伴い 2 つの講座が中止されました。

<実施状況>

年度	開催月	場所	内容	参加人数
29	2月	にこ♡ふる	ボランティア受入れ施設・団体担当者研修会（コーディネート等）	21人
30	2月	にこ♡ふる	わくわく居場所づくり研修会 活動紹介3団体、ワークショップ	81人
31(R1)	3月	にこ♡ふる	①居場所のつくり方講座	中止
			②助成金活用講座	中止

- ・庄内地域広げようボランティアの輪連絡会議

鶴岡市と酒田市が隔年で当番（会長、事務局）を担当し、庄内地域 5 市町のボランティアの交流・研修等を行っており、平成 31（令和元）年度は鶴岡市が当番となり 11/24 に「ボランティアの集い 2019」を開催しました。

③ 広報活動

ボランティア募集や活動紹介等は、隔月発行の「ボランティアセンターだより」と「市協ホームページ」への掲載により、ボランティアの情報発信を行いました。

- ・ボランティアセンターだよりの発行 6回（偶数月）NO. 259～NO. 264
- ・市協ホームページへの掲載 21回（毎日更新の山形県沖地震情報除く）

④ 災害ボランティアセンター設置訓練

鶴岡市総合防災訓練時に合わせて、平成 27 年度に作成したマニュアルをもとにした災害ボランティアセンター設置訓練を行う予定で準備しましたが、訓練日前日に台風 19 号が県内を通過し鶴岡市内で避難所開設の動きがあったことから中止になりました。

<実施状況>

年度	開催月	場所	参加人数
29	9月	第一学区	49人
30	9月	羽黒泉地区	48人
31(R1)	10月	田川地区	中止

⑤ 災害発生への対応

6月に鶴岡市を中心に発生した「山形県沖地震」で被災地社協として、さらには10月に宮城県等で発生した「台風19号」では大崎市、石巻市、丸森町へボランティアバス運行や職員派遣による応援活動を実施しました。

<実施状況>

1) 山形県沖地震（6月～7月）

地域名	ボランティア活動		主な活動
	件数	延人数	
鶴岡地域	23	94	瓦等の撤去、家具移動、清掃等
温海地域	15	190	瓦等の撤去、廃棄物分別、土壁等片付等
合計	38	284	

※今回は、鶴岡市災害対策本部との協議により、災害ボランティアセンターを設置せず市、市社協、NPO等が協力して対応した。

2) 台風19号（10月～12月）

市町名	ボランティア バス運行		職員派遣			備考
	回数	延人数	日数	実人数	延人数	
大崎市	9	80	22	18	39	・大崎市社協と災害時相互応援協定締結 ・救援物資（ウエットティッシュ）
石巻市	1	10	-	-	-	・石巻市社協と東日本大震災で関係構築 ・鶴岡地区特養連絡協議会にボランティア募集を行い、社協4名を含む9人が参加
丸森町	-	-	25	7	33	・山形県社協からの応援要請に対応 ・救援物資（オムツ、ティッシュ、土嚢袋等）
合計	10	90	47	22	72	※職員派遣の実人数は、大崎市と丸森町の両市町を重複した職員が3人あり。

3) 災害対応の振り返り会議の開催

- ◎ボランティアセンター運営委員会（8/22）
- ◎NPO法人鶴岡災害ボランティアネットワークとの会議（9/3）
- ◎市社協地域福祉分野職員の会議（9/3）
- ◎ウェザーハート災害福祉事務所千川原代表と市社協職員との会議（10/8）
- ◎市災害ボランティアセンター連絡会（10/8）

⑥ 災害ボランティアセンター連絡会

本市で災害が発生した際に災害ボランティアセンターを運営するにあたり、関係機関との日頃からの連携や役割等について話し合いました。

- ・月 日 令和元年10月8日（火）
- ・場 所 鶴岡市総合保健福祉センター

- ・内 容 (1)任期満了による正副会長の選任  
(2)災害ボランティアセンター連絡会について説明  
(3)山形県沖地震に関する報告と振り返り
- ・アドバイザー (1)ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦 氏  
(2)山形県社会福祉協議会地域福祉部 主事 阿部 和正 氏
- ・参加人数 15 人

#### ⑦ 災害ボランティアセンター研修会

災害ボランティアセンター連絡会の構成員が、任期満了により大幅に入れ替わったこともあり、同構成員とNPOや行政職員等を対象に「災害ボランティアセンター」を理解する研修会を開催しました。

- ・月 日 令和元年 10 月 8 日 (火)
- ・場 所 鶴岡市総合保健福祉センター
- ・内 容 演題 災害ボランティアセンターとは  
～災害時の地域力と受援力～
- ・講 師 ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦 氏
- ・参加人数 16 人

#### ⑧ 各福祉センターの主な取組

##### 【鶴岡福祉センター】

毎週月曜日と水曜日に実施していた「ちょボラ場」には、社会的に孤立したり馴染めない状態から社会のきっかけの場として参加する若者等も多くおりました。平成 31 (令和元) 年度は、鶴岡市生活自立支援センターくらしの新たな事業として就労準備支援事業がスタートし、「したくホーム」がオープンされたことから、若者のちょボラ場参加者が徐々に移行することになり月曜日の「ちょボラ場」を 8 月で終了しました。「ちょボラ場」の年間開催実績は計 98 回で参加者数は延べ 783 人でした。また、高校生の活動支援として新たに「学生ちょボラ場」を 9 月から始め、鶴岡南高校 JRC 同好会の学生が古切手の仕分け作業の活動に取り組み、計 12 回で延べ 39 人が参加しました。

隔年で交換訪問している江戸川福祉ボランティア団体協議会との交流事業は、江戸川区から 36 名が来鶴し、6 月 4 日から 6 日までの 3 日間鶴岡市で実施しました。鶴岡市のボランティアとの情報交換会は 58 名、交流・懇親会は 77 名が参加し、新たな関係づくりの場にすることができました。

車イスの貸出事業は、病気、怪我等で急に必要になった場合や、福祉学習、イベント、集会等の参加者用として計 57 回の貸出しを行いました。

##### 【藤島福祉センター】

気軽にちょっとしたボランティア活動ができる機会の提供と、ひきこもり者等の社会参加の場とするための「ちょボラ場」を 11 回開催し、延べ 43 人の参加があり、ボラン

ティア活動としての取組に加え、会話を楽しめる機会にもなりました。

【羽黒福祉センター】

傾聴ボランティアグループ「しゃべってほっとの会」が行うサロン活動へ支援を行いました。また、サマーチャレンジでは、小・中学生5人が参加し青色駐車場整備を実施し、2ヵ所整備しました。福祉学習では「楽しく防災を学ぼう・役立つ・ポリ袋料理」について講師をお迎えし、小・中学生・親子で参加し講義と料理を作り防災について学ぶことができました。

【櫛引福祉センター】

小学校4年生以上の児童生徒を対象に夏休み期間を利用した「サマーチャレンジ in くしびき」として、地域内の施設との連携のもと15人の子どもたちがボランティア活動を行いました。保育園のボランティアを希望する生徒が多く、園児のお兄さん、お姉さんとして、自由に活動する園児たちに四苦八苦している様子もあり、体験を通じいろいろなことを考える有意義な活動になりました。

【朝日福祉センター】

平成30年度に引き続き南部コミュニティセンターと連携して、市内の企業職員による除雪ボランティアを企画しましたが、小雪のため、一人暮らし高齢者への訪問交流に活動内容を変更して実施しました。また、地域でのボランティア活動を行っている「さわやかな会」（空き缶回収）、配食ボランティア（食の自立支援）、「ほほえみ桜の会」（移送サービス）の事務局としてボランティア団体等への支援を行いました。

【温海福祉センター】

青少年ボランティア養成講座については、庁舎総務企画課とともに協議し内容の検討等を踏まえ、温海中学校等の協力を得ながら、若い人材の育成に向け実施しました。

中年期の男性を対象にボランティアへの意識付けや人材の確保につなげるため、庁舎総務企画課と協働で「あんちゃ塾」を山五十川公民館にて2月に開催、11名の参加がありました。

(3) 福祉教育推進

① 福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の福祉の心を育てるため、各学校の地域に根ざした先駆的な福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<助成金交付状況>

年度	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計	
					学校数	金額
29	13校	4校	4校	1校	22校	532,000円
30	14校	5校	5校	1校	25校	429,000円

31(R1)	14校	5校	4校	1校	24校	534,000円
--------	-----	----	----	----	-----	----------

※助成限度額 1校当たり 30,000円

## ② 福祉学習サポーター活動

福祉学習等に協力するサポーター18人が登録して、ボランティアセンターや福祉センターが実施する福祉学習やボランティア講座等に協力していただきました。

年度	回数	延べ人数	活動先と延回数
29	8回	23人	小学校6、中学校2、サマーチャレンジ1
30	11回	26人	小学校6、中学校4、サマーチャレンジ1
31(R1)	9回	33人	小学校5、中学校3、サマーチャレンジ1

## ③ 各福祉センターの取組

### 【鶴岡福祉センター】

学校や学区社協などと協力し、地域の人達や障がい当事者等との交流・体験学習、またボランティア活動の事前講座等を行い、ボランティアの理解や福祉の心を醸成する学習等を行いました。

#### <福祉学習・ボランティア講座の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	活動先と延回数
29	17回	723人	小学校4、中学校3、高校2、養護学校1、児童館1、団体3
30	22回	1,362人	小学校6、中学校4、高校2、児童館2、団体4
31(R1)	14回	888人	小学校6、中学校4、高校1、団体2、福祉施設1

※ボランティアセンターが関わった取組。

### 【藤島福祉センター】

夏休み中の小学生を対象にサマーチャレンジを2回開催しました。1回目は「防災ボランティア活動について学ぼう」をテーマにした内容で開催し、2回目は「子どもや高齢者とふれあおう」をテーマに、保育園での読み聞かせや地域の高齢者との農業ボランティア活動を行いました。また、小学生と民生委員・児童委員の協力により赤い羽根共同募金の街頭募金活動を行いました。

#### <福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対象
29	2回	11人	小学校4校・中学校1校・藤島児童館
30	2回	23人	小学校3校・藤島児童館
31(R1)	3回	28人	小学校3校・藤島児童館

【羽黒福祉センター】

小学生を対象とした福祉学習は、介護予防事業の利用者との世代間交流を行いました。

また、中学生を対象とした福祉学習では、事前学習として、障がいのある方をはじめ福祉学習サポーター及び地域にある福祉施設職員、地域包括支援センターとの協働により、障がいや認知症に関する理解促進を図る学習を行いました。その後、地域にある、障がい者施設や高齢者施設に中学生が出向き体験学習を行い、より具体的に、思いやりの心や優しさなどを育むことができました。

<福祉学習の実施>

年度	回数	参加延べ人	対 象
29	3回	118人	小学校2校、中学校1校
30	3回	116人	小学校2校、中学校1校
31 (R1)	3回	145人	小学校1校、中学校1校

【櫛引福祉センター】

福祉や介護、健康づくりなど積極的に地域に出向いた「ふれあい福祉講座」を、櫛引地域の全ての介護保険事業所と協働し、それぞれの専門性や特色を生かした講座メニュー9つから選択してもらい実施しました。また、福祉学習の取組では、学校と話し合いを重ね、障がいのある方、高齢者の方より講演していただき、障がい者、高齢者への理解を深める体験学習となりました。また、中学2年生に「平和学習」を実施し、平和の大切さを伝えることができました。

<ふれあい福祉講座の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
29	10回	207人	主に地域のサロン
30	11回	179人	主に地域のサロン
31 (R1)	17回	276人	主に地域のサロン

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
29	2回	59人	小学校2校
30	3回	114人	小学校2校 中学校1校
31 (R1)	3回	93人	小学校2校、中学校1校

【朝日福祉センター】

あさひ小学校の4年生31名を対象に、2日間の日程で車いすを利用している方の講話や車いす体験、意見交流などを行い、「福祉の心」を育む機会としました。また、あさひ小学校6年生、朝日中学校2年生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し認知症の周辺症状や接し方を学ぶ機会としました。

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
29	—	—	実施なし
30	2回	55人	小学校1校、中学校1校
31 (R1)	4回	127人	小学校1校、中学校1校

【温海福祉センター】

温海中学校の3年生を対象に、福祉の心を育むことを目的とした福祉全般に関する講話と、地域で生活している障がい者の方が講師となり体験談やメッセージを伝えました。また、車いす等の介護体験研修を通して福祉へ理解を深めました。

<福祉学習の実施状況>

年度	回数	参加延べ人数	対 象
29	1回	61人	中学校1校
30	1回	60人	中学校1校
31 (R1)	1回	49人	中学校1校

**大震災等支援活動推進事業**

東日本大震災の発生直後から鶴岡市に避難した方々への支援を継続して実施しており、県社協の委託を受けた避難者生活支援相談員1名を配置し支援活動を実施しています。

避難者数は年々減少していますが、中でも高齢者の引きこもりや孤立化が懸念されるため、高齢者同士の交流を深め様々な不安や悩みの軽減を図るとともに、安心して生活できるように交流会を通して働きかけを行いました。

また、支援の方向性については、鶴岡市との連携を密に継続して取り組んできており、避難者の居住地域の各種事業への参加や人間関係づくり等を進め、さらに、ひとり暮らし高齢者には、生活上の専門的な相談機関や町内会長、民生委員・児童委員、地域包括支援センター等との関係づくりを積極的に行いました。

<避難者数の推移>

年度	全体		福島県		宮城県	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
29	43	117	34	93	9	24
30	41	113	34	93	7	20
31 (R1)	35	97	28	77	7	20

※各年度末の世帯数及び人数

①避難者交流事業

事業名	参加延べ人数
ひとり暮らし高齢者交流事業「にこにこ交流塾」 平成 31（令和元）年 5 月～12 月（全 4 回）	32 人
第六学区避難者支援事業（落語を楽しむ会）招待により参加 平成 31（令和元）年 9 月	5 人
9 年目のキャンドルナイト実行委員会主催「追悼と防災の集い」参加 令和 2 年 3 月 11 日 ※ 参加はフリーにより人数把握せず ※規模を縮小して開催	—

②訪問・相談活動

避難生活の長期化に伴い避難者の孤立が心配されることから、県の依頼により本市に避難しているすべての世帯に対し訪問活動を実施し、生活状況の実態等を確認しました。

また、山形県看護協会の協力のもと同行訪問を随時行い、特に高齢者を中心とした見守り訪問や電話による声かけを実施しました。あわせて、支援者からの相談対応や関係機関との連携も随時行いました。

<相談対応状況：方法>

（単位：件）

年度	訪問	電話	メール	来所	つなぎ	他	合計		
							避難者	支援者	計
29	320	463	332	74	16	240	418	1,027	1,445
30	262	367	391	57	6	49	379	753	1,132
31（R1）	205	379	396	62	2	50	355	739	1,094

<相談対応状況：種別>

（単位：件）

年度	住まい	健康医療	子ども	高齢者	職業	金銭	他	合計		
								避難者	支援者	計
29	210	141	133	344	57	54	1,207	725	1,421	2,146
30	165	153	126	273	73	38	850	669	1,009	1,678
31（R1）	126	286	98	325	58	25	832	755	995	1,750
連携先	福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、ボランティア団体 等									

※ 合計以外の件数は、避難者と支援者の合計数

※ 方法と種別は、対応の重複等の関係で合計件数は一致せず

### ③広報、啓発事業

「鶴岡市避難者支援だより」(No.329～340)を発行しました。特に、地域とのつながりを意識した情報をより多く発信することに努めました。

### ④関係団体との連携

- ・山形県看護協会との連携  
全戸訪問への同行訪問  
交流事業への参加
- ・ボランティア団体「チーム飛躍<sup>10</sup>」との連携  
学習支援『週末寺子屋』の開催  
開催頻度 月1回  
会場 にこ♡ふる  
参加延人数 40人
- ・ボランティア団体「ぼらんたす」との連携  
ぼらんたすが運営する『楽家』にて交流会を実施(参加者：11人)

## 地域福祉運営事業・支部運営事業

### ① 福祉のつどいの開催

地域福祉活動などに功績顕著な個人又は団体に対して、表彰を行いました。また、地域福祉活動として「近くに頼れる人がいない」「高齢になり独り暮らしが心配」「子育てに悩んでいる」「自分にできることはないだろうか」等の住民の困ったこと、想いを形にした住民主体活動を紹介しました。また、「社会的孤立を防ぐ～支え・支えられるおだがいさまのまちづくりを目指して～」と題して、社会福祉法人藤里町社会福祉協議会会長菊池まゆみ氏の講演を行い、参加者の地域福祉活動の意識の向上に努めました。

#### <実施状況>

年度	活動紹介	講演	表彰数	参加者数
29	鶴岡地域生活自立支援センター「くらしス」～ふつうの暮らしを求めて～	気になる人を真ん中に「ご近所パワー活用術」 ボランティアグループ「すずの会」代表 鈴木恵子氏	個人 4 団体 8	394人
30	想いをカタチに～おだがい	「地域の宝もの」みつけた！ ～だれもおだがいさまのまちづくりを目指して～	個人 3 団体 10	340人

<sup>10</sup> チーム飛躍：鶴岡市に避難している子どもたちとその保護者が、慣れない避難生活を送る中で落ち着かない日々が続く、中には不登校になる子どもや心のケアを必要とする親もいたことから、教員OBや有志の方々が学習支援に協力するグループ「チーム飛躍」を平成25年に立ち上げ、現在も活動を継続している。

	さまのまちづくり～ (第一学区、 大山地区、小 堅地区の地域 福祉活動紹 介)	NPO 法人「全国コミュニティライ フサポートセンター (CLC)」 理事長 池田昌弘 氏		
31 (R1)	想いをカタチ に～おだがい さまのまちづ くり～ (第二学区、 第六学区、三 瀬地区、藤島 地域、櫛引地 域の地域福祉 活動紹介)	「社会的孤立を防ぐ～支え・支え られるおだがいさまのまちづく りを目指して～」 社会福祉法人藤里町社会福祉協 議会 会長 菊池まゆみ氏	個人 7 団体 5	333 人

※ 会場は、中央公民館市民ホール

## ② 「鶴亀番付」の発行

数え年で 100 歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」（相撲の番付風に長寿者を記載）を発行しました。

- ・発行部数 1,410 部
- ・配布先 番付掲載者、敬老のつどい参加者、公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

<番付掲載者数の状況>

年度	人 数
29	150 人
30	156 人
31(R1)	172 人

## ③ 鶴岡市地域福祉活動計画の進行管理

鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画 2015」（5 ヶ年計画）の実施にあたり、平成 31（令和元）年度は進捗状況による検証を行い、日本地域福祉研究所から助言指導を受け、地域福祉活動計画の重点事業の実施に関する会議を開催し、進行管理を行いました。

<実施状況>

月日	会議名	出席人数
令和2年 2月4日	第1回地域福祉活動計画推進に係る意見交換	8名

④ 地域支え合いプランの推進

鶴岡福祉センターにおいて、住民主体の支え合い活動による、福祉のまちづくりの構築を目的に策定した「地域支え合いプラン」（計画期間5年間）の推進について、学区・地区社協等の各地域福祉推進基礎組織へ策定を働きかけ、各学区・地区の地域特性によるプロジェクト会議や策定委員会、ワーキングチーム等によりプラン策定に向け進めました。

鶴岡福祉センター以外の福祉センターにおいては、地域福祉委員会等によりその具体的な取組や協議を行いました。

**【藤島地域支え合いプラン】「みんなの藤島 いいどごプラン」**

支え合いプラン実施5年目の平成31（令和元）年度は、地域の特色ある福祉活動を目指し、平成30年度に引き続き重点目標である「農福連携」に取り組みました。庄内農業高校の農地を活用して生徒と高齢者が交流しながら野菜を栽培し、そこで採れたものを一人暮らし高齢者や地域のグループホームなどに届ける取組を行いました。農業と福祉の連携を通しての交流と活用を心掛け、様々な地域資源を巻き込み展開したことで、世代間の交流だけでなく成果物を活用した地域支援と地域活性化につながりました。

また、少子化や核家族化、高齢化などが相まって、一人暮らしの高齢者が増加傾向にあり、地域社会と接点がなく社会から孤立する社会的孤立の防止対策等が課題となっていることから、外出支援と買い物支援の取組を組み合わせた「高齢者お出かけサポート事業」を試験的に実施しました。

**【羽黒地域支え合いプラン】「羽黒おもいやりプラン」**

支え合いプラン4年目として、「災害に強いまちづくり」では、上野新田集落において、マニュアルを作成して避難訓練を実施し、地域福祉委員会にて報告して頂いたことは他の集落の意識付けとなりました。「地域活動センターとの連携」では敬老会や高齢者元気塾等事業に参加し協働を図りました。また、「なりげんき塾」から百歳体操の開催につなげることができました。

**【櫛引地域支え合いプラン】「くしびき ささえ愛プラン」**

「くしびき ささえ愛プラン」は実施4年が経過し、支え合いの仕組みを6地区に設置することができました。認知症家族支援、玄関先の除雪、福祉マップ等、住民同士の助け合いが進行しています。また、地域の居場所としてお茶のみサロンの立ち上げや住民参加型の通所型サービスBをスタートすることができました。

櫛引地域の介護保険事業所と一緒に行う活動は、事業所間の支え合いでもあり、地域

の応援隊としての活躍の場が増えました。

#### 【朝日地域支え合いプラン】「ともに生き 互いに支え合う地域 朝日」

地域支え合いプランで掲げた重点目標については、3地区のコミュニティセンターや地域ケア推進担当者からの協力を得ながら、その進捗状況を整理し、地域福祉委員会で成果や課題、今後の方向性等も含めて協議しました。

サロン活動の推進については、サロン活動の立ち上げ・定着支援等に生活支援コーディネーターをはじめ地域包括支援センターや保健師等と連携して取り組んだ結果、プラン策定時の6か所から16か所まで増えました。また、中央地区・南部地区において地区コミュニティセンターや地域ケア推進担当者と協働した「地域支え合い活動に関するアンケート調査」の結果を踏まえ、令和2年度は両地区のコミュニティセンターとの連携を深めながら新たな見守り・生活支援の仕組みづくりに向けた支援活動につなげていくこととしました。

#### 【温海地域支え合いプラン】「夢・希望を叶える地域での取組み」

平成30年度に進捗状況等を検証した際、地域福祉委員より地域住民からの標語を募る案がありました。6月の温海地域福祉委員会にて検討し8月に実行、164点の応募作品の中から選りすぐりの作品7点を各自治会の公民館に掲示、事業所への配布、広報での周知を図りました。さらには次期「地域支えあいプラン」作成に向け、取組方法を検討しました。

### 地域公益活動を行う市内社会福祉法人の連携の推進

社会福祉法人が連携して公益的取組を実施するために鶴岡地区特養連絡協議会の会員である9つの社会福祉法人の担当職員より各法人で行っている取組や課題、情報提供等について話し合う連絡会を2回開催しました。

また、平成31（令和元）年度は、初めて障がい福祉サービス事業を実施している8つの社会福祉法人を対象とし、公益的取組みの必要性や各法人で実施及び検討している内容等について情報交換会を行いました。

今後も地域課題の共有や住民への周知等について、各法人が連携できる関係づくりを検討しました。

#### <連絡会及び情報交換会の開催>

	月日	場所	内 容	参加人数
1	第1回連絡会 7月23日	栄養指導室	社会福祉法人による公益的な取組みを行うにあたり、法人の取組み状況・地域課題を確認し、さらなる公益的な取組みへの事業展開の方法や仕組みづくりなど基本的な知識と認識を深めた。	17名

2	情報交換会 12月5日	大会議室	障害福祉サービス事業を実施している社会福祉法人が、公益的取組みの責務について共通理解及び各法人の公益的取組み活動の情報交換をした。今後も、障害福祉サービス事業所間の情報交換会を開催することを確認した。	30名
3	第2回連絡会 1月23日	栄養指導室	・障がい福祉サービス事業所の情報交換会の報告 ・情報発信及び各事業所の活動状況報告	24人

### (5) 家族介護者交流支援事業（市委託事業）

在宅介護者を対象として、地域包括支援センター等関係機関の協力を得て、情報提供や介護相談、会食、温泉入浴、マッサージ等を行い、参加者同士の交流と情報交換により介護者の心身のリフレッシュに資することができました。

<実施状況>

(単位：回数→回、人数→人)

年度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引		朝日		温海	
	回数	人数										
29	5	93	1	21	2	31	2	19	1	10	2	23
30	4	69	2	19	2	23	2	26	2	15	2	25
31(R1)	4	63	1	14	2	29	2	17	1	14	2	15

### (6) 福祉バス運行事業（市委託事業）

平成31（令和元）年度より市委託により実施し、福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。

<実施状況>

年度	鶴岡			藤島		
	運行日数	運行回数	延べ利用人数	運行日数	運行回数	延べ利用人数
29	414日	414回	7,744人	75日	75回	1,001人
30	397日	397回	7,200人	47日	47回	682人
31(R1)	228日	378回	6,423人	61日	62回	979人

※運行台数：鶴岡地区 2台、藤島地区 1台

※鶴岡地区の運行日数について、平成30年度までは運行回数と同数にしたものの平成31（令和元）年度からは、実際に運行した日数とした。

**(7) 共同募金運動の推進（鶴岡市共同募金委員会）**

① 募金運動

全福祉センター一律に、赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金 500 円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

年度	戸別募金	学校募金	法人募金	その他募金	合計
29	16,548,889	716,221	1,061,500	1,838,168	20,164,778
30	16,876,202	786,363	1,033,500	1,773,173	20,469,238
31 (R1)	16,517,627	764,911	961,500	1,930,627	20,174,665

② 配分

赤い羽根募金（平成 31 年度分）については、市内の組織、団体、特定非営利活動法人（NPO 法人）等が実施する 30 の事業に配分決定され、各団体において令和 2 年度の地域福祉活動等に配分金を活用する予定です。

歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯及び児童養護施設入所者に義援金としてお渡しし、新たな年を迎えるための一助としました。

<福祉施設・団体への配分>

配分事業	31 (R1) 年度		30 年度	
	件数 (件)	金額 (円)	件数	金額 (円)
地域福祉・在宅福祉事業	11	2,574,000	11	2,624,000
「福祉の心」推進事業	2	120,000	2	120,000
障がい者小規模作業所支援事業	7	995,000	3	450,000
民間立学童保育所支援事業	7	989,000	5	669,000
福祉車両整備事業	3	3,966,000	2	3,000,000
合計	30	8,644,000	23	6,863,000

<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

(単位：円)

配分事業	31 (R1) 年度	30 年度
ボランティア活動推進事業	2,583,665	2,759,238
地域支え合い体制推進事業	4,943,000	4,916,000
広報誌発行事業	1,500,000	1,500,000
合計	9,026,665	9,175,238

<歳末たすけあい募金配分>

区 分	世帯員数	31 (R1) 年度		30 年度	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
経済的に支援を 必要とする世帯	1～2 人	328	1,968,000	338	2,028,000
	3～4 人	94	846,000	112	1,008,000
	5 人以上	25	250,000	29	290,000
	小計	447	3,064,000	479	3,326,000
児童養護施設入所児童・生徒		19	380,000	18	300,000
小 計		466	3,444,000	497	3,626,000
募金運動に関わる事務費経費		—	103,000	—	108,000
合 計		466	3,547,000	497	3,734,000

## 2. 生活支援事業

### (1) 総括

認知機能の低下や障がいなどによる生活課題を抱える方だけでなく、生活困窮や対人トラブルなど様々な課題を抱えた方からの相談に対応し、制度やサービス利用が課題解決につながる方には紹介と利用支援を行いました。失業・病気・社会的孤立など複雑な要因が絡み合い短期の解決が困難と思われる相談については、行政や高齢者、障がい者の相談機関、くらしスなど各専門機関の外、司法、医療、児童など必要に応じて多職種との連携を図りながら支援に取り組みました。

高齢や障がいなどにより、日常生活上の判断能力に不安がある方については、日常生活自立支援事業や法人後見事業などで日常的な金銭管理の支援や、生活、療養看護及び財産管理を行い、地域で自立した生活が継続できるよう、また、ご本人が安心して生活できるよう権利擁護の視点で支援を行いました。

生活困窮など経済的に課題を抱える方への支援については、単に貸付による一時的な救済だけでなく、相談対応の経過で背景にある根本的な課題を共有し、相談者の自立に向けた支援として適切な相談機関との連携を図りました。

### (2) 重点事業

#### ① 成年後見制度の意識啓発と権利擁護の推進

市民からの成年後見制度の利用に関する相談への対応と、福祉サービス利用援助事業利用者の成年後見制度への移行手続きを推進しました。

また、平成30年度から開催を検討していた市民対象の成年後見制度研修会については、予定していた企画と同様の内容で11月に法テラス主催の研修会が開催されたため、平成31(令和元)年度は研修企画を変更し、成年後見制度利用促進のための中核機関の設置と役割をテーマに、関係機関及び専門職同士が課題と今後の連携の在り方について勉強会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせました。

#### ② 自立につなげる相談支援の推進

ふれあい福祉相談や貸付の相談者、福祉サービス利用援助事業の相談対象者の中には、背景に複雑な課題を抱えていたり、心身の不調が原因で自ら課題解決に取り組むことが難しい状況に陥っている場合があるため、相談対応の過程で課題を客観的に分析し、必要に応じて適切な相談機関や医療機関につなぐなど、相談者の不安を軽減し安定した生活を構築するための支援を心がけました。

#### ③ 新たな生活支援サービスのニーズ把握と事業化の検討

平成31(令和元)年度社協内で実施された、「ひかり輝く☆取り組みコンテスト」に向けた利用者調査をきっかけに、親族がいないもしくは協力を得られない方などの入所や入院、死後の手続きを保証で支える仕組みづくりについて検討を始めました。今後は全国の

先駆的な事例を参考にしながら、発表のための調査資料に関わった各関係部門と連携し、具体的な実施方法の検討を行います。

### (3) 生活支援関連事業

#### ① ふれあい福祉相談事業

ふれあい福祉相談（常設相談）の相談件数は合計 569 件で、相談の内訳は負債や困窮など生計に関する相談が最も多く、その他は転居など住まいに関する相談が増えました。

無料法律相談は 102 件で、相続や債務などの金銭に関わる相談の外、離婚、不動産トラブル、対人トラブルなど多岐に渡る相談がありました。

<ふれあい福祉相談件数>

(単位：件)

項目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
29	常設相談	293	80	138	43	14	157	725
	法律相談	65	4	8	7	5	6	95
30	常設相談	375	31	89	21	90	62	668
	法律相談	64	8	8	4	5	5	94
31(R1)	常設相談	216	27	42	21	64	199	569
	法律相談	70	8	6	4	7	7	102

#### ② 日常生活自立支援事業

日常生活自立支援事業の契約件数（利用者数）は合計 164 件で、新規 38 件、解約 26 件で、平成 30 年度から 12 件の増となりました。利用者の内訳では認知症高齢者が全体の 7 割と多く、精神障がい者、知的障がい者などの順で、男女比では男性が約 6 割を占めました。関係機関からの利用相談の問い合わせも増えており、特に地域包括支援センターや障害者相談支援センターからの相談が多くありました。

相談内容では以前から金銭管理に不安があった一人暮らしの高齢者が入院などをきっかけに相談に至る場合や、精神や知的障がいの方で生活費の管理に問題があり生活に支障をきたしている場合など、概ね金銭管理に係る課題が中心となりました。

<契約件数等の推移>

(単位：件)

年度	相談件数	新規契約件数	利用者数
29	1,425	29	129
30	1,870	41	152
31(R1)	2,406	38	164

#### ③ 成年後見推進事業

法人後見業務については、平成 30 年度までの受任 13 件に新規受任 2 件を加え、15 件の受任となりました。法人後見運営委員会では新規ケースについて指導及び助言を受けるなど適切な業務を行いました。若い障がい者の方の受任も多くなり長期にわたる支援を見通したり、相続人がいない方などの不動産管理や処分に関する業務のほか処分を実施する場

合は、相応の専門知識が必要となることから、運営委員会の機能向上や適切に専門家の助言を得られる体制を検討する必要があります。

受任団体等との情報交換等、成年後見連絡会を企画いたしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見合わせました。

<法人後見受任件数> (単位：件)

年度	後見	保佐	補助	合計
29	12	3	2	17
30	6	5	2	13
31(R1)	6	7	2	15

<申立別件数> (単位：件)

項目	後見	保佐	補助	合計
親族申立	4	2	0	6
市長申立	2	4	1	7
本人申立	0	1	1	2
合計	6	7	2	15

#### ④ 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金貸付は、主に生活費不足を補うための緊急小口資金の貸付が最も多く、次いで高校や大学への進学や進級に伴う教育支援費・就学支度費と転居費の貸付となりました。貸付後は民生委員など関係機関と連携を図りながら償還指導を行うとともに、長期滞納者に対してはたすけあい資金と同様に償還指導を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月25日より県において緊急小口資金のほか、総合支援資金に特例措置が設けられ、緊急小口資金への相談が9件、3件の申請件数となりました。

<生活福祉資金相談件数等>

年度	相談件数	貸付件数	貸付金額
29	180	60	42,261,560円
30	123	53	35,628,000円
31(R1)	98	45	29,052,000円

<生活福祉資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
総合支援資金	1						1
教育支援費	3	2	3				8
就学支度費	7		1				8
技能修得費		1					1
療養費							
障がい者自動車購入費							
転居費	8						8
緊急小口資金	9	1		2		1	13
その他	5					1	6
合計	33	4	4	2	0	2	45

⑤ たすけあい資金貸付事業

申請理由の内訳は、生活保護申請から決定までの生活をつなぐ費用としての申請が多くそれ以外では、低収入の状況において予定外の出費が発生し生活費に不足が生じたケースがほとんどですが、中には日常的に金銭管理に問題があるため生活費不足に陥っているケースもあり、状況によって生活保護や日常生活自立支援事業の利用、くらしスへの相談につなぐなど根本的な課題解決が図られるよう支援を行いました。

滞納世帯に対しては、電話や文書での督促のほかに職員が手分けして直接自宅を訪問し、現状把握と償還指導を実施しました。不在の場合は再訪問を実施し、できるだけ面談での相談を行い、必要に応じてくらしスなど他の相談機関への紹介も行いました。

フードバンク<sup>11</sup>については、コープフードバンク、地域住民の協力（フードドライブ）、個人の寄附などに支えられ、緊急的に食料支援が必要な方へ支援を行うことができました。フードバンクは年々利用が増えており、貸付を利用することなく一定期間の生活を乗り切ることができる効果があることから、今後も必要性が高まる事業と思われまます。

<たすけあい資金相談件数等>

年度	相談件数	貸付件数	貸付金額
29	134	120	3,340,500円
30	135	102	2,878,500円
31(R1)	132	111	2,972,000円

<sup>11</sup> フードバンク（食料銀行）：包装のいたみなどで、品質には問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品を企業などから寄附を受け、生活困窮者などに配給する活動。

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
生活費	75	1		2		5	83
生活保護つなぎ資金	12	4	1				17
治療費・療養費							
入園・入学及び支度金							
住宅費	1						1
転居費							
その他	10						10
合計	98	5	1	2	0	5	111

<フードバンク食品提供件数>

(単位：件)

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
29	99	3	3	0	3	0	108
30	128	7	2	6	2	4	149
31(R1)	133	9	0	0	0	10	152

### 3. 相談支援事業（市委託事業）

#### (1) 地域包括支援センター

##### ◆ 総括

鶴岡市による地域包括ケアシステムの体制強化を目的とした地域包括支援センターの再編から、1年半が経過いたしました。高齢者等が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続することができるよう、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種が複雑多様化している個別課題や地域課題の解決に向け、多職種等との連携を密に行いながら、総合相談の拠点として機能の充実に努めました。

また、地域包括支援センターの再編と同時期に配置された生活支援体制整備事業における第2層生活支援コーディネーターについても、地道に地域に向いて密に関わり、関係機関等とも連携を図りながら、地域の支え合いの仕組みづくりの推進に努めました。

いずれも鶴岡市の施策の動向や社協の三計画等の確認も行いながら、円滑に業務が遂行されるよう努めました。

<平成31（令和元）年度地域包括支援センター職員配置>

	担当地域	65歳以上 人口	保健 師	主任 ケアマネ	社会 福祉士	プラン ナー	生活支援コ ーディネーター
地域包括支援センター かたりあい	第六学区・上郷・大泉・ 三瀬・由良・小堅	6,770	1	1	2	3	1
地域包括支援センター なえづ	第二学区・斎・黄金	3,497	1	1	1		1
地域包括支援センター くしびき	櫛引	2,523	1	1	1	1	1

※65歳以上の人口は31年3月現在

※30年10月1日 地域包括支援センターの再編（担当エリアの再編、人員体制の変更）

※30年10月1日 鶴岡市生活支援体制整備事業

第2層生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置

##### ◆ 重点目標に対する成果・達成

複合的な課題に対し分野を超えて包括的に支援することができるよう、県や市、関係機関等が主催する各種研修会に参加し、質の向上に努めました。また内部においては、関係事業所に向いて業務手順等の確認も含めた研修を開催するなど、一体的な支援に結びつくことができるよう支援しました。

介護予防では、高齢者の自立支援に向けて適切なケアマネジメントに努めるとともに、いきいき百歳体操をはじめとする通いの場づくりの立ち上げの協力とあわせ、その後のフォローアップ等にも関わるなど、継続的な支援に努めました。

<相談件数>

年度	相談件数	内新規	相談形態				相談者	
			訪問	来所	電話	その他	本人・家族等	その他
29	12,419	598	5,108	1,000	5,847	464	11,183	7,782
30	9,644	421	4,723	833	3,634	454	8,336	5,863
31(R1)	10,706	361	3,586	969	5,761	390	8,844	6,881

<相談内容> ※重複含む。

年 度	実 態 把 握	権 利 擁 護 関 係	介 護 関 係	疾 病 ・ 障 が い 関 係	包 括 的	在 宅 福 祉 サ ー ビ ス	医 療 関 係	経 済 的 問 題	事 業 対 象 者 ・ 要 支 援 者	そ の 他	介 護 予 防 ケ ア マ ネ ジ メ ン ト	指 定 予 防 支 援
29	237	563	2,855	1,162	702	456	478	262	1,186	335	1,603	4,316
30	265	638	2,069	1,151	626	391	369	240	736	311	2,240	2,078
31(R1)	338	737	2,569	1,733	725	409	548	234	1,268	196	1,955	2,016

※事業対象者：平成29年度開始した総合事業のうち給付実績を伴わない相談

※介護予防ケアマネジメント：平成29年度開始した総合事業のうち給付実績を伴う相談

※社協包括あつみ支所 平成29年9月30日廃止、他法人へ業務移管

※社協包括の本部支所を廃止し、平成30年10月1日 3拠点に再編

<研修参加状況>

内 訳	参加人数	研 修 内 容
内部研修	60人	介護予防ケアマネジメントの共通理解、メンタルヘルス研修、情報管理研修会 等
外部研修	229人	地域包括支援センター新任職員研修等 24人 地域包括支援センター全体研修 12人 医療と介護の連携研修会 12人 介護支援専門員更新研修 12人 介護支援専門員スキルアップ研修会 9人 介護予防ケアマネジメント研修会 14人 成年後見制度、高齢者虐待研修会 10人 認知症予防、キャラバンメイト関連研修 21人 多職種研修会 29人

		地域福祉推進関連研修 77 人 自立支援型地域ケア会議関係研修 9 人
合計（延べ）	289 人	

## ◆ 事業の実施結果

### ○ 地域包括ケアシステム構築の推進

複合的な事例（障がい・困窮・虐待・DV等）を常に専門職間で共有し、その支援に向けて鶴岡市や警察署、関係担当課や医療機関など多職種との連携を図りながら支援に努めました。また、地域ケア会議や地域ケアネットワーク会議、地域ケア個別会議等の開催や参加等を行いながら、他専門職からの助言を支援につなげたり、地域の課題を地域で解決していくことができるよう、その取り組みに向けた情報共有等を行いながら支援を行いました。

<地域包括ケアシステム構築のための事業、会議の回数>

年度	介護予防普及啓発事業	地域ケア連携等の会議	事例検討会議
29	121	248（自立支援型 10 回）	16
30	70	252（自立支援型 9 回）	11
31（R1）	94	282（自立支援型 6 回）	15

※介護予防普及啓発事業：地区サロン、なりげんき塾、介護予防講座、住民研修会等

※地域ケア連携等の会議：ケア推進担当者会議、ネットワーク会議、民協定例会

### ○ 認知症支援体制の強化

学校や関係機関等と連携しながら認知症サポーター養成講座の開催や認知症にテーマを限定した講義の開催等、認知症の理解や地域で見守る重要性などの理解、普及啓発に努めました。認知症カフェが設置されている地域においては、継続的な運営協力を行うとともに、未設置地域においては、視察研修等の機会を設け、情報交換も含めた勉強会を開催しました。

また、認知症当事者家族には、認知症初期集中支援チーム・徘徊登録制度等の活用を提案するなど、家族の不安軽減を図ることができました。未受診の場合は、早期受診を促し、受診同行等の支援も行いました。

### ○ 生活支援体制の整備

定例会や部会、事業実施など、地域との地道な関係を構築しながら継続的な支援を行いました。4月には住民主体による通いの場である通所型サービスB事業所の開設やいきいき百歳体操の普及推進を図るなど、介護予防や日常生活を活動的にする通いの場の開発に努めました。また、専門機関との調整を図りながら、地域の意向に沿った鬱予防や介護予防

等への取組を行い、継続した支援に努めることで、複数地域で介護予防サークルが立ち上がりました。また、関係機関等と協力して地域ケアネットワーク会議を地域住民と協働で開催するなど、支え合いの地域づくりを推進することに努めました。

#### □ 地域包括支援センターかたりあい

専門職・生活支援コーディネーター・介護支援専門員（プランナー）が相互に協力し合い、高齢者等が引き続き住み慣れた地域で尊厳ある自立した生活の継続に向け、関係機関と連携のもと支援することができました。

#### □ 地域包括支援センターなえづ

専門職・生活支援コーディネーター・地域ケア推進担当者と連携し、地域や関係機関の会議・行事に参加することで顔の見える関係づくりと周知を図りました。地域ケア会議で地域課題や目標の達成度を共有しながら、地域関係者とともに目的に応じた活動（鬱予防・介護予防等）とその評価を行いました。

#### □ 地域包括支援センターくしびき

個別ケースでは、介護予防に視点を置いた支援を行いながら課題を把握するとともに、地域ケア会議で生活支援コーディネーター等関係機関と地域課題を集約し、特に各地域の活動の中心となる地域代表の方や関係機関と情報を共有し、今後の支え合いの地域づくりにつながるよう取り組みました。

## (2) 鶴岡市障害者相談支援センター

### ◆ 総括

障がい者が地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、障がいの種別や年齢に関わりなく、身近な相談窓口として本人や家族への相談支援をはじめ、地域の中核的な役割を担う基幹相談支援センターとして指定相談支援事業所間の調整や同行支援、困難事例の検討会、権利擁護・障害者虐待の相談窓口、ピアカウンセリング・家族交流会の開催などを行いました。

特に、高齢者、児童、保健・医療、教育、就労等に関する関係機関や民生委員・児童委員、自治会等との会議を通し、連携強化に努めるとともに、総合的・専門的な相談支援を実施しました。

また、サービス等利用計画を作成する指定相談支援事業所として、障がい者やその家族のニーズに寄り添いながら、生活の質の向上を目的にサービス等利用計画を作成しました。継続サービス支援ではサービスの利用状況や心身の状況、新たなニーズ等を確認し、ライフステージが変わっても関係機関と支援の方向性を共有することができました。

### ◆ 重点目標に対する成果・達成

障害者地域自立支援協議会の事務局として、4つの専門部会の活動と自立支援協議会だよりの発行、障害者差別解消法理解促進研修の開催、鶴岡市では初めての開催となった「つるおか障害者アート展」等を通し、「障がいのある人もない人もともに生きるまちづくり」を目指し、お互いに尊重しあう共生社会の実現に向けた活動に取り組みました。

また、障がい者の重度化、高齢化、親亡き後を見据えた相談体制の拡充、体験の場の確保、緊急時の受け入れ態勢等を整備する「地域生活支援拠点の整備」については相談支援部会を検討の場とし、「短期入所事業所と相談支援事業所との情報交換会」を開催し、設置に向けた情報共有と検討を行いました。

### ◆ 事業の実施結果

#### ○ 相談支援事業

障がい福祉サービスの利用につながる相談、障がい児者及びご家族からの一般的な相談（相談支援事業）のほか、地域の相談支援の中核を担う基幹相談支援センターとして総合的・専門的な相談支援（相談支援機能強化事業）に取り組んでいます。

令和2年3月末現在、相談件数合計は6,611件（前年度比408件増）、相談実人数は1,055人（前年度比52人増）、新規相談者は143人（前年度比7人減）と平成30年度とほぼ横ばいの状況となりました。

障がい種別では、成人は知的障がい、精神障がい、児童は発達障がい、知的障がいの方からの相談が多い状況にあります。また、障がいの有無にかかわらず、診断のない方や手帳未所持の方からの相談もありました。

相談支援の内容では、本人のみならず家族支援が必要な方、金銭や人間関係で課題があ

る方等、支援範囲の拡大及び課題の複合化、既存の制度による解決が困難な事例が増加しています。それに伴って解決等に要す時間や連携する機関も増加の一途です。そのため質の高い専門性の発揮と他職種との有機的な連携を求められており、相談支援が担う役割について連携機関からの期待も増している状況です。

さらに、基幹相談支援センターとして、相談支援事業所での対応が困難なケースへの同行や助言、相談支援部会での勉強会や事例検討等を行い、地域における相談支援体制の強化を図ることに努めました。

<相談状況>

(単位：件)

年度	新規件数	相談合計	訪問相談	来所相談	電話相談	関係調整
29	164	5,942	2,522	743	2,677	6,579
30	150	6,203	2,514	671	3,018	6,767
31 (R1)	143	6,611	2,872	609	3,130	9,291

※相談合計は、訪問相談・来所相談・電話相談の計

<相談内容の内訳>

(単位：件)

年度	福祉サービス利用	障がい・病状理解	健康・医療	不安解消 情緒安定	保育・教育	家族・人間関係
29	5,828	443	850	653	138	480
30	5,967	393	745	614	45	356
31 (R1)	6,075	453	621	610	47	225

年度	家計・経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
29	444	356	280	86	83	245
30	265	231	235	81	27	317
31 (R1)	177	176	144	73	24	393

◇ 障がいを理解する研修会・障害者アート展の開催

障害者差別解消法理解促進事業の一環として障がいを理由とする差別の解消を推進し、共生社会を実現することを目的に研修会を開催しました。

また、平成 31 (令和元) 年度に初めて「障害者アート展」を開催し、障がい者が日頃取り組んでいる芸術・創作活動やその作品を展示するとともに障がい者芸術への理解促進を図り、障害者芸術活動を支援する機会を作りました。

開催月日	研修会名	参加人数	内 容
9月7日 (土) 13:30 ～15:00	「ひとりのハートが 世界を変えられる。」	160名	開催場所：出羽庄内国際村 講 師：一般社団法人バリアフリー観光ツア ーセンター代表 加藤 健一氏 研修内容：障がい者への差別解消に対する市民 の関心を高め、幅広い理解を得る。 同時開催：・しごと部会「きてみて市」 8事業所参加 ・鶴岡市スポーツ課の協力による ボッチャ体験コーナー
10月3日 (木) ～ 10月14日 (月)	「障害者アート展」	1,176名	開催場所：鶴岡アートフォーラム 名 称：「今ここに咲く！つるおか ひょうげんの花 ～鶴岡の障害のある人の表現活動 を紹介する展示会～」 内 容：①「みんなで咲かせよう」 障がいがある方もない方もみんな が描いた個性的な「花」の絵を展示 出品数：127点 ②「つるおか障害者アート展」 公募した鶴岡在住の障がいがある 方の作品を展示 出品数：54点（約100名の参加） ③やまがた障がい者芸術作品公募 展 入賞作品巡回展（同時開催） ④「やまがたのきざしとまなざし 展」（同時開催）

#### ◇ ピアカウンセリング

障がいのある方・家族同士が気軽に交流し、学び合う場として企画、参加者同士がつながり合い、共に過ごす時間を通じ、将来を見通すことを目的に実施しました。

開催月日	交流会名	参加人数	内 容
10月1日 (火)	障がいのある方の 家族交流会	14名	山形県福祉休養ホームを会場に、障害者差別解消法について学び、グループワークを行った。温泉に入りながら交流する方、軽

			運動に参加された方もおり、参加者同士の情報交換を行った。家族同士が気軽に交流し、わが子の将来について考えるための機会となった。
1月19日 (日)	障がいのある方の ピアカウンセリング 交流会	11名	障がいのある方同士が、ゲームを通しそれぞれの思いを話し、情報共有が図れた。

## ○ 日中活動・余暇支援

障がいの有無に関わらず自由に参加できるサロンを開設し、平成30年度に引き続き平日のイベントとしては月に1回のヨガセラピーと軽運動教室を開催しました。個人ボランティアの参加もあり、障がいのある方に声かけをしていただきながら一緒に取り組みました。ヨガ指導者によるストレッチなど、運動不足の解消や心のリフレッシュに良い機会となり、軽運動では、通所事業所の活動としても運動マシン等を利用していただき、楽しみながら身体を動かせる場を提供することができました。土曜日サロンは平成31(令和元)年度より第1・3土曜のみの開設とし、DVDやカラオケなど少人数の参加ではありましたが、興味を持った方たちが楽しくサロンに参加しました。

<サロン実績> ※開設日：月曜～土曜日

年度	開設日数	延来所者数	イベント回数	参加延人数
29	291日	872人	97回	295人
30	289日	666人	83回	383人
31(R1)	265日	355人	40回	216人

<余暇支援実績>

年度	料理教室	工芸(創作)教室	備考
29	1回・9人	1回・6人	2/28 簡単おやつ作り(ホットケーキ) 3/6 創作教室(ちぎり絵教室)
30	1回・17人	—	1/30 簡単おやつ作り(フレンチトースト)
31(R1)	1回・16人	—	1/29 簡単おやつ作り(フルーツどら焼き)

## ○ 聴覚障がい者への支援

命に関わるNet119緊急通報システム<sup>12</sup>が10月から開始され、それに伴い聴覚障がい者への説明会を開催し周知及び登録を勧めました。聴覚障がい者は自分のことであるが登録のお知らせが来ても意味がわからない、信じていいのかなど戸惑っている方もおり実際に手話通訳を付けて説明会を行ったことで安心して登録することができました。

<sup>12</sup> Net119緊急通報システム：聴覚や言語機能の障がいによって音声会話の困難な方がスマートフォン等から全国どこからでも119番通報ができるサービス。

平成 30 年度同様「手話でおしゃべり移動お茶会」を開催し、1 回あたり平均 20 人前後の参加者があり、自由に手話で気兼ねすることなくおしゃべりができる楽しみの場となっています。

聴覚障がい者が地域で暮らしやすい生活ができるように環境整備の一環で、医療機関、消防署、学校で、聴覚障がい者の理解や手話通訳の仕事内容の説明や周知を図り、理解を深めることができました。

手話奉仕員養成講座は、平成 31（令和元）年度は入門編を開催し 14 名の申し込みがありました。また、講座修了者を対象に今後通訳者へと興味を持ち、手話の技術向上をめざすためにレベルアップ講座を開催しました。

<手話通訳設置事業相談対応状況>

年度	手話通訳	講師依頼	個別相談等	手話通訳者派遣調整 (H29 度～)
29	63 件	21 回	118 件	157 件
30	62 件	12 回	131 件	152 件
31 (R1)	77 件	14 回	144 件	156 件

<手話奉仕員養成講座開催状況>

年度	内容	回数	修了者数	備 考
29	入門編	20 回	—	
30	基礎編	24 回	4 人	入門編・基礎編合せての修了者
31 (R1)	入門編	19 回	—	

○ 指定相談支援事業

◇ サービス等利用計画作成

サービス等利用計画作成を通して、障がい者やその家族のニーズに寄り添いながら、障がい分野のみならず、介護保険や医療機関などの関係機関との連携を図り生活の質の向上に努めました。

また、継続サービス利用支援により、サービスの利用状況や心身の状況、新たなニーズ等を確認するとともに、状況に応じて計画の見直しを行いました。

<サービス等利用計画延べ作成数> (単位：件)

年度	新規 (実人数)	継続
29	59	1,014
30	6	992
31 (R1)	51	1,272

#### ◇ 障害支援区分認定調査

新規認定調査件数は全体の24%で、近年は、全体件数の約3割が新規の調査となっています。

全体の内訳としては、身体障がい79件、知的障がいが195件、精神障がいが138件となっており、平成31（令和元）年度は平成30年度と比べて全体件数が83件増えています。介護保険利用の方の調査も全体の約3%となっており、幅広い関係機関との連携を図り詳細な情報を得て、適切な相談支援につなげることができました。

＜調査実施件数＞ (単位：件)

年度	件数	件数内訳		
		新規	更新	変更
29	438	111	307	20
30	329	108	212	16
31 (R1)	412	100	294	18

＜障がい別調査実施件数＞ (単位：件)

年度	件数	件数内訳			
		身体	知的	精神	難病
29	438	79	190	169	0
30	329	79	104	146	0
31 (R1)	412	79	195	138	0

#### ○ 障害者地域自立支援協議会

鶴岡市福祉課障害福祉係とともに事務局を担い、障がいのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、個別支援会議や各専門部会の活動等を通じて、保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関とのネットワーク構築強化や地域課題・社会資源の可視化、共生社会の実現に向けた障がい理解の促進等を図りました。

＜各種会議開催状況＞ (単位：回)

年度	運営委員会	部会長会議	部会及び部会事務局会議	地域移行定着委員会	個別支援会議	事務局会議(全体)
29	1	2	64	—	102	4
30	4	1	73	1	93	3
31 (R1)	1	0	53	1	70	4

#### ◇ 個別支援会議

複合的な課題を抱えた世帯等に対して、障がい福祉サービス事業所・医療機関に留まらず、司法・福祉行政等の協力を得ながら、個別課題への対応や情報共有を重ねてきました。

主な検討内容としては、精神科病院の措置入院者の地域生活に向けた調整や行動障がい

のある方への対応策、権利擁護に関する検討がありました。

また、基幹相談支援センターとして市内相談支援事業所の相談支援専門員への同行支援・助言、会議の主催により多面的な支援の展開、地域課題の抽出・解決に向けたアプローチを展開しました。

#### ◇ 専門部会

4つの専門部会において各部会長を中心に、事務局と構成員が協働し、地域課題や社会資源情報の集約、課題別情報交換会・研修会の開催、事例検討会等に取り組み、自立支援協議会の中心的な役割を担いました。

部 会 名	内 容
相談支援部会	<p>協議会の要として、障がい児者とその家族が安心して地域生活を送れるよう相談支援専門員同士が制度勉強や事例検討を通じて連携強化、質向上に努めました。</p> <p>障害福祉計画に基づいた地域生活支援拠点の整備に向け、障害福祉サービス事業所との情報交換会を開催したほか、精神科病院や介護保険分野との連携に向けた協議を行い、地域課題の抽出から解決に向けた活動を企画しました。</p> <p>また、基幹相談支援センターを中心とした重層的な相談支援体制の構築に向け検討を重ねました。</p> <p>※事務局会議：11回 部会・研修会等：9回</p>
しごと部会	<p>障がいのある方の一般就労の促進と、就労支援を通じた意欲及び能力の向上に関する現状及び課題について、公共職業安定所や特別支援学校、就労系事業所等の方で構成する部会で協議及び情報交換を行いました。</p> <p>平成31（令和元）年度は、働きたい障がいのある方が利用できるサービスについて知ることができる「就労系障害福祉サービス事業所等ガイドブック」を作成しました。また、企業から作業受注の相談をうけ、市内就労系事業所に情報提供や説明会等のコーディネートを実施し二つの事業所に作業受注が決定しました。</p> <p>また、鶴岡市地域生活自立支援センターと連携し、企業交流会（鶴岡地域生活自立支援センターくらし主催）に参加し企業側の現状及び課題把握に努めました。</p> <p>工賃向上と障がい理解に関する取組としては、平成30年度に引き続き、市内就労系事業所合同バザー「きてみて市」を市内3か所で開催。11月11日（月）に職員情報交換会を開催し、事業所職員間のネットワーク構築強化に努めました。</p> <p>※事務局会議等：7回 部会・研修会等：2回</p>

<p>こども部会</p>	<p>第1回こども部会総会において、自立支援協議会、こども部会についての説明、平成30年度の事業報告、平成31（令和元）年度計画について協議を行いました。その後、「放課後等デイサービス職員の情報交換会」を開催し、他事業所との情報交換を図りました。</p> <p>また、「医療的ケア児への適切な支援に向けた保健・医療・障害福祉等関係機関が連携を図るための協議の場の設置」のひとつとして、第2回部会「つるおか医療的ケア児支援に関する研修会」を開催し、県内で医療的ケア児を対象とした児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業を行っている事業所代表を講師として講演会を行いました。</p> <p>その他、「子ども版障害福祉のしおり」を改訂し、放課後等デイサービスガイドブックについては、平成31（令和元）年度から児童発達支援事業所の情報も掲載し、各200部製本後、教育、医療、保育機関等への配布を行いました。</p> <p>※事務局会議：8回 部会・研修会等：2回</p>
<p>発達障害部会</p>	<p>発達障害部会では平成31（令和元）年度に策定された第2次鶴岡市障害者保健福祉計画（つるおか障害福祉アクションプラン2019）に沿って活動方針を決定し、発達障害に関わる悩みを抱えている方が、切れ目のない相談支援を受けることができるよう、相談支援ネットワークの構築を図りました。</p> <p>11月6日には「発達障害のある高校生への支援についての情報交換会」、12月5日には「発達障害者の相談窓口等の情報交換会」を開催し、支援が途切れやすい青年期の相談支援体制を強化することができました。</p> <p>また、冊子「発達障害児者の相談を受けてくれるところ」は最新の情報へ改定し鶴岡市のホームページへ掲載しました。また、地域の団体・企業等が主催する研修会・勉強会等への協力としては、懇談会等に部会構成員が参加することで、新しい情報を得たり、現状や課題等を伝えてきました。インターネット等を活用した情報発信も随時行うことができました。</p> <p>※事務局会議：8回 部会研修会等：3回</p>

#### ◇ 運営委員会

障がい者本人・障がい福祉サービス事業者・保健・医療・教育・就労等関係者及び学識経験者を委員とし、障害者地域自立支援協議会の運営や各部会の活動や課題について意見交換を行いました。

平成31（令和元）年度は1回のみで開催となりましたが、活動内容は書面にし、運営委員へ報告しました。

#### ◇ 障害者虐待防止の取組

障害者の虐待に関する相談については、鶴岡市とともに「障害者虐待防止センター」の機能として相談支援を行いました。

平成 31（令和元）年度末の 3 月には、虐待防止に関する研修会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できませんでした。

#### ◇ 広報委員会

鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動内容をより多くの方々へ周知し、理解していただくため「自立支援協議会だより」を年 2 回発行しました。市役所、各庁舎、障害者相談支援センターには通年配置するとともに、鶴岡市のホームページに掲載し、多くの方から目を通していただけるようにしたほか、鶴岡市内の障がい福祉サービス事業所へメール配信し、事業所への周知強化を図りました。

また、知的障害者相談員、身体障害者相談員へも配布し、自立支援協議会の動きの周知に努めました。

### (3) 鶴岡地域生活自立支援センター（生活困窮者支援事業）

#### ◆ 総括

複雑多様化した生活課題等様々な理由から、生活困窮状態または社会的に孤独を感じている状態にある相談者に対して、その人らしい自立した生活ができるよう支援しました。

新規相談件数は、平成 30 年度の 217 件に対し平成 31（令和元）年度は 185 件と減少しているものの、継続した相談者の訪問および来所相談等、伴走型支援を目指した支援を行いました。

また、平成 31（令和元）年度からの新規事業「就労準備支援事業」においては、関係機関との連携により、就労を目指した支援及び基本的な生活リズムの確立等様々な支援を行いました。

#### ◆ 重点目標に対する成果・達成

相談者が抱える課題について、関係機関の協力を得ながら相談者とともに課題の整理及び解決に向けた方向性の確認を行うことにより、本人の気持ちに寄り添った支援を行いました。

<相談件数等>

(単位：件)

年度	新規相談件数	プラン作成	増収入者数	就労者数
29	252	54	12	48
30	217	42	8	43
31 (R1)	186	40	20	31

<相談内容> ※重複含む

(単位：件)

年度	相談内容内訳															合計	
	病気・障がい・健康	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	負債	仕事探し・就職	仕事上の不安やトラブル	地域との関係	家族との関係	子育て	介護	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない		その他
29	106	50	122	17	38	21	100	19	6	37	16	6	27	9	4	13	591
30	83	36	114	29	33	32	84	11	2	24	10	10	14	7	3	0	492
31 (R1)	54	35	101	22	21	25	75	5	5	18	6	8	10	5	5	0	395

## ◆ 事業の実施結果

### ○ 包括的・継続的・即応的な支援

本人のみならず世帯が抱える課題に対して、ケース会議等を活用し関係機関との連携を行い、包括的・継続的な支援を行いました。

また、相談者の生活課題等において、その課題が深刻化する前にできるだけ早期の支援に努めました。さらに、相談当日における食べるものがないなどの経済的に困窮し、緊急的な支援が必要な方へ、生活支援課が担当しているフードバンクを活用し食料品の提供を行い生活の維持に努めました。

アウトリーチ<sup>13</sup>の視点から2カ所（大型ショッピングセンター・就労準備支援事業活動場所）で出張相談会を実施し、相談時間を日中と夜間（20時まで）とし、多様な方々が相談できる機会を設けました。

### ○ 社会資源とのネットワークの構築

名称	目的	回数	参集、協力、配布等機関
就労支援部会	・相談支援における関係機関との連携	1	ハローワーク・高等学校・一般企業・保護司会・協力事業主会・青少年育成センター等
企業交流会	・就労体験受入れ ・企業間情報交換	2	一般企業・就労体験受入福祉事業所・若者サポートステーション・福祉課等
住まい関係調査	・不動産業者との連携強化状況把握	1	山形県宅地建物取引業協会会員の不動産業者（44事業所）
くらしスだより	・事業内容の理解	2	民生委員児童委員・相談支援機関・一般企業等
自立相談支援調整会議	・相談ケース評価 ・就労準備支援事業利用決定	10	ハローワーク・健康課・福祉課・社協（地域福祉課）
学区地区コミセン事業説明	・事業内容の理解	4	鶴岡地域 21 学区地区コミセン事務局関係者
早朝銀座通り清掃ボランティア（参加）	・鶴岡銀座商店街振興組合との連携	6	銀座通り商店街の商店
ひきこもり支援会議（福祉課主催）	・ひきこもり支援	4	精神科病院・福祉課・健康課・ひきこもり相談支援機関
自立相談支援の事業説明会	・事業説明 ・民生委員との連携	12	各民生委員児童委員協議会

上記のように、様々な機会において、関係機関との連携を図り、相談者及びその世帯の抱える課題に対応できるよう、また、地域住民の一員として生活できるよう支援しました。

<sup>13</sup> アウトリーチ：支援が必要にもかかわらず、それを望まない、受けられない対象者に対し、支援（情報）を届ける手法のこと。

また、企業交流会においては、平成29年度から開催している就労支援部会のなかで、生活困窮者等を受け入れている企業同士の情報交換会があれば良い、との意見により発足したもので、企業同士のつながりにより受入れ企業の拡大の一助となりました。

## ○ 就労支援の強化

就労に必要な基礎能力の形成と就労意欲の喚起を図ることで一般就労につなげることを目的として、鶴岡市からの委託事業である就労準備支援事業を平成 31（令和元）年度より実施しました。初年度の事業内容としては、主に就労に必要な基礎能力の形成について支援しました。

<支援件数等>

(単位：件)

年度	新規件数	終了件数	利用者数	就労者数
31 (R1)	21	5	16	10

<平成 31（令和元）年度 就労準備支援事業のプログラム内容>

※主な実施場所は鶴岡銀座商店街鶴岡ダダ3階（旧セントル）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	個別支援	銀さん会	ボランティア 活動	銀さん会	個別支援
午後	就労体験	就労体験	ボランティア 交流	就労体験	だだ集会

毎月2日 銀座商店会早朝美化活動

月曜日から金曜日午前 第6学区コミュニティー防災センター周辺除雪（就労体験）

銀さん会 : ①銀座通り美化活動・ポスティング

②調理実習

だだ集会 : ①グループワーク

自分の長所や短所、自己主張の仕方、人とのコミュニケーションの方法等

②模擬面接・履歴書の書き方

社会人マナー講習・挨拶の仕方・服装の準備等

## 4. 高齢者福祉事業

### (1) 総括

介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民・利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスの提供に努めました。

また、介護職員の人財確保・育成については、介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、喀痰吸引等の資格取得の研修体系を整理し、社協職員をはじめ、鶴岡市内の介護に従事する職員が働きながら福祉専門職に必要な資格を取得するとともに、介護のプロとしてスキルアップし、定着できるよう取り組みました。平成30年度から実施している介護職員実務者研修には、平成31(令和元)年度は10人の受講があり、講師を務めた職員も真剣に緊張感を持って対応しました。講師については、新たに2名の職員を教員として養成することができました。

介護保険事業については、「山形県ICT活用プロジェクト支援補助金」を活用して情報通信技術や業務改善ソフトを導入し、業務の効率化等を図りながら職員の負担を軽減し、働きやすい職場づくりに取り組むとともに、利用者との関わりを大切にし、福祉サービスの充実に努め利用者から選ばれる施設を目指しました。

介護保険の利用は、平成30年度と比較すると通所介護で延べ利用者数が前年比-3,186人、訪問介護では延べ訪問回数が前年比+503回となりました。居宅介護の延べ利用者数は前年比+1,878人となっていますが、その多くは要支援の方でした。引き続き良質な福祉サービスの充実に図り、利用者や家族介護者、地域住民から選ばれる施設を目指す必要があります。

### (2) 重点事業

#### ①「第二期 事業経営計画」の推進

重点課題ごとに、推進作業班によるこれまでの取組内容の検証や、継続して取り組む内容、また、新たな課題にも柔軟に検討し対応しました。

基本的な視点	重点課題に対する平成31(令和元)年度の主な取組
1. 人権を尊重し信頼性の高いサービスの提供	①良質なサービスの推進 ・「サービスの質向上委員会」（仮称）の設置については引き続き検討するとともに、「接遇マニュアル」を十分に活用し、良質なサービスの提供に努めました。 ・第三者委員による施設訪問（介護保険施設1カ所、保育園2カ所）を継続実施し、利用者や家族介護者などと交流を図りながら意見を聞く機会を設けました。 ・福祉サービス利用者満足度調査は7～8月にかけて実施し、11月に石巻専修大学教授の照井孫久先生から集計結果の分析と解説をしていただきました。今後は良質なサービスの提供に生かすとと

	<p>もに、要望や意見を反映した事業運営を行うこととしました。また、利用者や家族介護者に結果を報告する準備を進めました。</p> <p>②リスクマネジメント体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各施設のリスクマネジメント委員会が中心となって事故や苦情の分析・対策を講じ、安全安心な福祉サービスの提供に資する機会としました。</li> </ul> <p>③障がい者が自分らしく暮らしていくための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社協内の介護保険事業所と障がい福祉サービス事業所が連携し、障がい者それぞれの能力を發揮できる働く場について、事業経営計画推進担当班を中心に検討を行いました。</li> </ul>
<p>2. 地域に開かれた施設づくり</p>	<p>①福祉に対する理解の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や学校で行う福祉学習に施設職員が協力し、小中学生に車イスの操作説明を行うなど職員が有する介護技術や知識を活用しながら、市民の福祉に対する理解促進に取り組みました。</li> </ul> <p>②地域貢献の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催など地域交流・地域貢献の充実を図りながら、積極的に取り組みました。</li> </ul> <p>③災害時における地域との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災計画（風水害・土砂災害）については、防災安全課の指導により内容を改正し、鶴岡市へ提出しました。</li> <li>台風や地震などの自然災害時における事業継続のため、「大規模災害に対するBCP（事業継続計画）」の策定については、法人の危機対応計画と連動して作成することとしました。</li> </ul>
<p>3. 働きがいのある職場づくり</p>	<p>①人を大切にし、やりがいの持てる職場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社協職員全員を対象に行ったアンケート結果から、研修体系や階層別など研修のあり方や、資格取得助成、各種手当の検討を行いました。</li> </ul> <p>②人財確保と介護職員の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員初任者研修や介護職員実務者研修を実施し、介護職員初任者研修受講生 19 人（内社協職員 6 人）、介護職員実務者研修受講生 10 人（内社協職員 5 人）の受講があり、介護人財の確保と介護職員の養成に取り組みました。</li> </ul> <p>③専門職のための資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発展・強化計画と連携を図りながら、事業部門として研修体系や階層別研修について検討を進めました。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践報告会は「ひかり輝く☆取り組みコンテスト」として社協全部署で取り組みました。実践報告の発表会は12月10日に開催し審査委員長を大橋謙策先生にお願いしました。当日は審査員5人と職員93人が出席しました。27グループから9グループが一次審査を通過し、審査の結果ゴールド賞1グループ、シルバー賞1グループ、ブロンズ賞2グループを選出しました。</li> </ul>
4. 安定したサービスが提供できる経営組織の構築	<p>①適正かつ効率的な経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に選ばれる施設を目指すとともに、経営の効率化・安定化に努めました。</li> </ul> <p>②コンプライアンスの徹底に向けた体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設で法令遵守に係るコンプライアンスチェックシートを活用し、職員の理解や浸透などを整理したうえで、コンプライアンスに対する職員一人ひとりの意識を深めるよう努めました。</li> </ul> <p>③施設運営の管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の経営意識の醸成を図るため、役付け職員を対象とした事業経営研修を10月に開催し、職員34人が出席しました。</li> </ul>
5. 将来性・継続性を見通した事業の展開	<p>①ニーズ調査による新規事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度に行った介護保険・障がい福祉サービス事業の若手職員を対象とした職員座談会から出された意見を整理し、新規事業の展開について検討しました。</li> <li>・介護保険サービスと障がい福祉サービスが一体となった共生型サービスについて、新規事業として事業展開の必要性を探り、先進地（新潟市味方）へ視察研修を行い、実施の可能性について検討しました。</li> </ul>

## ② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、虐待防止研修や接遇研修などを行い利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

## ③ リスクマネジメントの推進

介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理、利用者の安心安全を確保するため施設ごとリスクマネジメントに取り組むとともに、今年度は上級1名、初級2名のリスクマネジャーを養成し、組織全体のリスク管理の意識付けと事故防止の徹底に努めました。

## ◆自動車事故報告

自動車事故では、施設内や送迎先での接触事故が52件で全体の約7割となりました。特になえづではブレーキとアクセルの踏み間違いによる車両事故が発生し、多額の損失となりました。

11月に社協全部署を対象とした運転業務の事故防止を図るため、山形県鶴岡警察署による「安全運転研修会」を開催し、早めのライト点灯、運転者の安全運転義務等について研修を行いました。研修には施設職員、福祉センター職員、シルバー人材センターの派遣職員も含め72人の参加がありました。

＜自動車事故件数＞ (単位：件)

年度	衝突 追突	接触	脱輪	破損 (車輛・物)	人身 事故	交通 違反	不明	合計
29	4	65	0	8	0	0	16	93
30	6	54	2	3	1	0	21	87
31(R1)	8	52	1	6	0	0	3	70

#### ◆介護事故・苦情報告

事故件数は235件ありました。服薬関係については、施設長会議やリスクマネジメント会議、看護師会議などで服薬マニュアルの確認をし、職員間で共有しながら予防につなげることができました。

事故については、職員一人ひとりの意識の向上に向け「気づき改善シート」（事故が起きる前に気づいた事を書き出すシート）を活用し、重大事故とならないように努めました。

＜介護事故件数＞ (単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
29	9	36	43	127	215
30	6	31	29	157	223
31(R1)	5	24	25	181	235

＜苦情を含む事故＞ (障がい・児童保育・福祉センター・包括を含む) (単位：件)

年度	身体事故 による	送迎や訪問 の時間遅れ	調整漏れ、 忘れ、間違い	荷物等の 紛失破損	その他	合計
29	5	46	17	5	14	87
30	6	29	37	23	11	106
31(R1)	6	45	33	34	16	134

#### ④ 個別機能訓練の充実

高齢者の自立支援や重度化防止を図るため、理学療法士・作業療法士・看護師の専門職による機能訓練メニューや日々の生活に沿ったリハビリ等を通し、個別機能訓練の充実に取り組みました。

### ⑤ 経営的視点を持った施設運営

経営の効率化・安定化が求められているため、各事業の経営分析を行い、経営状況を把握しながら事業展開を図りました。10 月には職員の経営意識の醸成を図るため、役付職員を対象とした事業経営研修を開催し、職員 34 人が出席しました。

### ⑥ 業務改善への取組

介護職員の人財確保や離職防止、職員が働きやすい環境を整えるため、I C Tや業務改善ソフトを導入し、業務の効率化、省略化を図るなど業務改善に取り組み、残業時間の削減を図りました。

また、業務改善ソフトの使用については、通所介護の生活相談員会議を中心に操作方法などを確認し、ソフトの有効活用に努めました。

### ⑦ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献の充実を図りながら積極的に取り組みました。

### ⑧ 地域における公益的な取組

地域福祉課と連携を図りながら、地域の拠点施設として、鶴岡市社協の人材活用を視野に入れた実施可能な公益的な取組について検討しました。

## (3) 高齢者福祉関連事業

### ① 通所介護事業

地域に開かれた施設を目指すとともに、地域の方から施設に足を運んでいただけるような事業を展開し、地域の中にある施設としての役割を果たしました。

また、利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努め、さらに、理学療法士・作業療法士・看護師等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として 6 ヶ月に一度の運営推進会議<sup>14</sup>を開催し、施設の状況報告のみならず、地域住民や関係機関との意見交換を行いながら地域に開かれた施設を目指しました。

<通所介護事業実績> (暫定・障害を除く)

年度	一般	認知症	予防 (支援 1.2)	総合事業		合計	平均 利用率
				サービスA	現行相当		
29	55,063 人	11,693 人	4,312 人	450 人	4,417 人	75,935 人	79.3%
30	53,390 人	11,943 人	0 人	713 人	8,142 人	74,188 人	78.0%

<sup>14</sup> 運営推進会議：定員 18 名以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

31(R1)	51,117人	10,741人	6人	904人	8,234人	71,002人	74.4%
--------	---------	---------	----	------	--------	---------	-------

## ② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活が維持できるよう、関係機関との連携のもと、きめ細やかなサービス提供に努めました。また、喀痰吸引や経管栄養ができる介護職員を養成し、専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

<訪問介護事業実績>

年度	項目	一般			予防	総合事業(従前相当)		合計
		身体介護	身体生活	生活援助		身体含む	生活のみ	
29	回数(回)	22,019	5,258	26,530	3,364	683	3,981	61,835
	割合(%)	35.6	8.5	42.9	5.4	1.1	6.5	100.00
30	回数(回)	24,257	5,120	21,479	—	1,209	7,215	59,280
	割合(%)	40.9	8.6	36.2	—	2.1	12.2	100.00
31(R1)	回数(回)	26,390	5,123	18,821	—	1,689	7,760	59,783
	割合(%)	44.1	8.6	31.5	—	2.8	13.0	100.00

## ③ 居宅介護支援事業

医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し、職員の資質向上に努めるとともに、多職種連携のもと、日常の様々な場面で潜在能力を引き出すことができるようなケアプラン作成に努めました。

<ケアプラン作成数> ※暫定含む (単位：件)

年度	要介護		要支援 1・2	事業対象	暫定	合計
	要介護 1・2	要介護 3・4・5				
29	9,460	4,813	281	87	28	14,669
30	9,537	4,669	533	228	53	15,020
31(R1)	9,124	4,780	2,286	696	12	16,898

※暫定：年度末まで介護区分がつかなかったケース

## ④ 短期入所事業

利用者やその家族が、必要とするときに、必要なサービスを適切に提供できるよう居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら、職員間で利用者の情報を共有し、安心して利用していただけるように努めました。

<短期入所事業利用実績>

年度	おおやま			はちもり		
	利用率	延べ利用数	平均介護度	利用率	延べ利用数	平均介護度
29	91.3%	8,668人	3.1	88.3%	2,902人	2.4

30	91.5%	8,681人	3.1	93.7%	3,079人	2.5
31(R1)	91.0%	8,660人	3.0	85.2%	2,805人	2.5

※はちもり：利用率・延べ人数に障がい含む

#### ⑤ 訪問入浴事業

利用者が可能な限り、居宅において有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、快適で満足いただける入浴の援助を行いました。

一人ひとりに合わせた会話や働きかけを通し、安心して入浴していただき、身体清潔の保持・心身機能の維持に取り組み、安全で快適な入浴介護を提供しました。

<訪問入浴事業利用実績>

年度	利用延べ回数(介護)	備 考
29	462回	1台稼働
30	696回	1台稼働
31(R1)	627回	1台稼働

#### ⑥ 特別養護老人ホーム、グループホーム

ユニットケアの更なる資質向上を目指し、利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解・尊重するとともに、その人らしさを大切に、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。

地域住民の一員として積極的に地域行事に参加したり、施設に来ていただくような交流を通し、心豊かな生活が送れるよう努めました。

<特別養護老人ホームおおやま> 定員124人

年度	入居率	延べ入居人数	平均介護度
29	96.7%	43,755人	4.3
30	96.6%	43,706人	4.2
31(R1)	96.4%	43,758人	4.2

<グループホームはちもり> 定員9人

年度	入居率	延べ入居人数	平均介護度
29	97.7%	3,210人	2.8
30	98.8%	3,244人	3.5
31(R1)	99.3%	3,270人	3.3

#### ⑦ 高齢者生活福祉センター（市委託）

在宅での生活に支障がある高齢者に一定期間住居を提供することにより、安心感のある生活が送られるよう支援しました。

<くしびき高齢者生活福祉センター> 定員 10 人

年度	延べ入居者数	入居者数（一日平均）	入居率
29	1,165 人	3.1 人	31.9%
30	1,174 人	3.1 人	32.2%
31(R1)	1,134 人	3.2 人	31.0%

⑧ 老人福祉センター

鶴岡老人福祉センターでは、60 歳以上の高齢者が気軽に利用して一日を楽しく過ごせるようレクリエーションや講座などを行ったほか健康相談を実施しました。入浴設備の故障により、長期間入浴ができない状況になったこともあり、利用者数は平成 30 年度と比較し、1,180 人の減少となりました。

羽黒福祉センター及び櫛引福祉センターでは、地域福祉を推進する拠点として、地域の方々や福祉関係団体等の研修、福祉活動をはじめ介護予防事業や高齢者の生きがいと健康づくり事業等、様々な事業に利用していただきました。

<利用者数> (単位:人)

年度	鶴岡	羽黒	櫛引
29	20,340	1,463	1,789
30	17,683	2,767	2,382
31(R1)	16,503	2,123	3,771

(4) 独自事業

① 介護職員初任者研修

平成 30 年度に引き続き、介護職員等が働きながら資格取得ができるよう講義の多くを夜間に開催し介護職員の養成に努めました。

<受講状況> (単位:人)

年度	受講者数	修了者数	募集定員（内社協枠）
29	21	21	50 (10)
30	13	14	25 (5)
31(R1)	19	19	25 (5)

※30 年度修了者数には 29 年度補講者 1 人含む

② 介護職員実務者研修

平成 30 年度に引き続き、より実践的な技術と知識を習得するとともに、介護サービスの質の向上が図られ、鶴岡市社協職員や鶴岡市内の施設・事業所で働く介護職員の介護福祉士の資格取得が促進されることを目指しました。

全国社会福祉協議会中央福祉学院による通信学習と鶴岡市社会福祉協議会でのスクーリングによる合計 450 時間の課程により資格取得ができるものとなっており、さらに講師陣の育成にも力を入れました。

＜受講状況＞

(単位：人)

年度	受講者数	修了者数	募集定員 (内社協枠)
30	13	13	18 (10)
31 (R1)	10	10	18 (10)

### ③ 生涯現役推進事業「なりげんき塾」

地域福祉課や各福祉センターと連携を図りながら町内会など、住民の身近な地域に出向いて社協らしい「なりげんき塾」を開催しました。平成 31(令和元)年度は 15 カ所で開催を予定していましたが、11 カ所での開催となりました。

＜開催状況＞

年度	実施会場数	参加実人数
29	10 カ所	204 人
30	13 カ所	205 人
31 (R1)	11 カ所	213 人

### ④ 専門職資質向上研修

職員一人ひとりの専門性を高め、サービスの質の向上につなげることを目的に、職種別研修や企画研修、派遣研修などの充実を図りました。

#### ・公開研修

福祉サービス事業の専門性と質の向上を目的に、鶴岡市内や三川町内の福祉サービス事業所からも参加を募り、一堂に会して研修会を開催しました。

職員が専門的な知識を習得でき、サービスの質の向上が図られるよう、全国的に活躍している講師を招き公開研修を企画・実施しました。

#### ・資格取得研修

個別機能訓練、喀痰吸引等従事者、認知症実践者研修、相談業務等の研修に派遣し、専門的ケアの資格者を増やし、サービスの質の向上に努めました。

#### ・専門職研修

職員が自ら必要な研修を企画した各専門職の研修会を開催し、利用者の自立支援に向けて、考え、実践できる職員の育成を目指しました。

<研修参加人数と内容>

	内 訳	参加人数	内 容
事業推進課企画	公開研修	152 人	表 題：「介護を通じて見えるもの ～介護職へのエール～」 開催日：令和元年 9 月 19 日（木） 講 師：介護ジャーナリスト 小山 朝子氏 場 所：出羽庄内国際村
	事業経営研修	34 人	表 題：「職員の経営意識の醸成」 開催日：令和元年 10 月 25 日（金） 講 師：本多ビジネスコンサルティング 中小企業診断士本多喜悦氏
	安全運転研修会	72 人	表 題：「交通事故防止について」 開催日：令和元年 11 月 6 日（水） 講 師：山形県鶴岡警察署交通課 交通安全係長大江尚人氏
専門職研修	通所介護	57 人	デイサービス職員研修 表 題：「身体が動けば心も動く」 開催日：令和元年 7 月 24 日（水） 講 師：日本レクリエーション協会 インストラクター 船見敬造氏
		2 人	生活相談員会議研修 表 題：「地域包括ケアシステム構築研修会」 開催日：令和元年 11 月 2 日（土）
	居宅介護支援	35 人	表 題：「CSW 視点による居宅介護支援業務について～面接技術・多職種連携を含む対人援助技術～」 開催日：令和元年 11 月 26 日（火） 講 師：日本地域福祉研究所理事 國光 登志子氏

派遣 研修	外部派遣	32人	介護職員等特定処遇改善加算取得支援セミナー 鶴岡市ケアプラン研修会 山形県障がい者虐待防止・権利擁護研修 カウンセリングゼミナール 日本ケアマネジメント学会研究 in 仙台 国際福祉機器展視察研修 リーダー育成研修 福祉サービス苦情対応実践者研修 共生型サービス視察研修 八色園視察研修 県社会福祉法人経営者セミナー 障がい児・者福祉関係種別新任職員研修 全国生産活動・就労支援部会職員研修会
	資格取得派遣	23人	認定調査員新規研修 介護支援専門員更新研修 主任介護支援専門員更新研修 主任介護支援専門員研修 認知症介護実践者研修 認知症対応サービス事業管理者研修 障がい者相談支援従事者研修（現任研修） 障がい者相談支援従事者研修（特別研修） サービス管理責任者研修（基礎研修） サービス管理責任者研修（更新研修） 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修）
		3人	リスクマネジャー養成講座（初級・上級）
	障がい福祉福祉 サービス部門	0人	未実施
各施設 研修 （内部・外部）	居宅介護	902人	法令遵守・サービス規律 合同事例検討会 居宅介護支援の運営基準
	通所介護	1,086人	高齢者虐待防止 認知症高齢者の支援方法 食中毒・感染症予防対策
	訪問介護	786人	緊急対応検討（訪問中に起こった事例） 強度行動障がい支援者研修 最新の排泄ケアの知識と技術

訪問入浴	24 人	法令遵守・服務規律 身体拘束 医療的ケア児支援に関する研修
おおやま入居 (特養・短期)	1,822 人	理念・法令遵守・身体拘束 食事提供と口腔ケア 多職種による看取り研修
はちもり (GH・短期)	137 人	服薬介助方法 認知症ケアにおける現場の役割 高齢者の脱水予防
障がいサービス	432 人	個人情報及びプライバシー保護 虐待防止・権利擁護 感染症対策について
合計 (延べ)	5,599 人	

※合計 (延べ) には障がい福祉サービス事業も含む。

## 5. 障がい者福祉事業

### (1) 総括

利用者が、地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら、意思決定の支援を心がけ、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進を図りました。

また、障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら一人ひとりのニーズに沿った個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

### (2) 重点事業

#### ① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた他職種が連携し合い、地域の中で暮らす「本らしい生活」を支えることに努めました。

#### ② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の学習を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

#### ③ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

さらなる5S活動<sup>15</sup>を進め、事故やトラブルを未然に防ぐ環境整備に努めました。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
29	0	2	5	6	13
30	1	8	2	34	45
31(R1)	2	4	6	25	37

#### ④ 地域交流・地域貢献の推進

地域の方々との交流や環境美化活動・イベント等への積極的な参加を通し、利用者が地域へ出ていく活動を進めると同時に、地域住民から施設に足を運んでいただく機会などをつくり、地域交流の充実を図りました。

<sup>15</sup> 5S活動：業務を安全かつ効率的に進める活動で、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」の頭文字からとった言葉。

### (3) 障がい者福祉関連事業

#### ① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、積極的に地域との関わりを深め、施設から情報発信を行い、障がい者理解と協力の輪を広げます。時代に即した製品の開発や品質の向上、販路の拡大等、利用者工賃の増額に努めました。

<就労継続支援事業B型の延べ利用者数> (単位：人)

年度	かたぐるま	もみじが丘	合計
29	8,310	4,920	13,230
30	8,371	4,342	12,713
31(R1)	7,804	4,358	12,162

#### ② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう、職員の資質向上に努め、支援力の向上を図りました。

特に、居宅介護・重度訪問介護事業では、訪問介護員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への積極的な参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え、信頼される事業所を目指しました。

<生活介護・自立（機能・生活）訓練 延べ利用者数> (単位：人)

年度	なえづ (生活介護)	かたぐるま (生活介護・自立生活)	もみじが丘 (生活介護)	合計
29	3,993	5,714	1,813	11,520
30	3,559	5,631	1,828	11,018
31(R1)	3,038	5,938	1,577	10,553

<訪問介護事業 延べ利用回数> (単位：回)

年度	居宅介護			重度訪問	移動支援	合計
	身体介護	家事援助	乗降介助			
29	11,238	6,913	59	1,615	86	19,911
30	10,845	6,129	151	1,787	79	18,991
31(R1)	10,701	5,833	152	1,508	94	18,288

<訪問入浴事業 延べ利用実績>

年度	利用延べ回数	備 考
29	537 回	1 台稼働
30	470 回	1 台稼働
31(R1)	495 回	1 台稼働

## 6. 児童福祉事業

### (1) 総括

児童福祉事業においては、子ども・子育て支援新制度等を踏まえ、保育所、児童館、学童保育所及び放課後児童クラブ各施設で多様な子育て支援に関するニーズにできる限り応えることに努め、子どもの健全育成を図りました。

また、質の高いサービス提供ができるように、職員の各種研修会への参加やその報告会の開催により自己研鑽や専門職としての資質や意識向上に努め、日々の施設設備の安全点検や毎月の避難訓練の実施等、安全で安心な子育て環境づくりに継続して取り組みました。

### (2) 保育所

各保育所がその地域の自然環境を生かした体験活動や地域住民との積極的な交流等により、子どもの健全な成長・発達を支援しました。

また、関係機関との連絡を密にし、地域ニーズの把握とその対応に努めました。職員の資質向上の側面では、4つの保育所合同の研修会を実施し、保育所職員全員の保育力向上が図られました。

平成29年度から運用を行っている保育業務支援システムの活用による、業務効率化にも継続して取り組みました。平成31（令和元）年度6月に発生した山形県沖地震時には、緊急時における情報発信に課題がみられたことから、保護者との連絡体制の強化を図るべく、メッセージ発信システムをくしびき保育園に先行導入しました。今後は他3つの保育所でも導入し、連絡体制の強化を図ります。

くしびき保育園において平成31（令和元）年度から実施した体調不良児対応型の病児保育事業については、保護者の働き方に合わせたニーズ把握に努め、安心かつ安全な保育体制を確保しながら、迎えに来るまでの間の緊急的・保健的な対応が図られました。

### (3) 児童館

地域の児童健全育成の拠点である児童館においては、次代を担う児童が健やかに育つための環境づくりに継続して取り組みました。関係各所との連携を深めながら子育てに関する情報の収集や共有を行うとともに、SNS<sup>16</sup>を活用した施設情報の発信に努めるなど、親子が安心して集える居場所づくりや保護者同士のつながりの場となるよう、施設機能の拡充を図りました。

また、法人が運営する5つの児童館が共同で事業や研修会を企画・実施するなど、児童館相互の連携強化を図るとともに、専門職としての資質向上に努めました。地域拠点としての施設機能を活用し、地域住民と直接交流できる機会を設け、各児童館で世代間交流や

---

<sup>16</sup> SNS：Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の頭文字からとった言葉で、インターネット上で人と人とのつながりや交流を楽しむコミュニティ型の会員制サービスのこと。

体験学習など様々な主催行事を実施し、自由来館事業の拡充に努めるとともに中・高校生を対象としたボランティア等の育成や活動も支援しました。

＜合同行事参加人数＞

行事名	人数	備考
はなまるランド	215	5 児童館合同+まんまルーム 会場：朝暘武道館
はなまる運動会	157	5 児童館合同 会場：朝暘武道館
逃走中	122	5 児童館合同 会場：鶴岡市中央児童館
合計	494	

#### (4) 学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

学童保育所及び放課後児童クラブについては、児童が安心して過ごせる場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう支援を行いました。他方、少子化により子どもの数は減っているものの登録者数は増加傾向にあり、保育スペースの確保については今後検討課題となりました。

家庭や学校と綿密な情報共有を行い、アレルギーを持つ児童や気になる児童等へも適切に支援しました。各種研修会への参加に加え、社協の学童保育所・放課後児童クラブ行動計画に基づいた全体研修会の実施等、職員の資質向上にも努めました。

毎月の避難・消火訓練、小学校と連携した集団下校による引渡し訓練の実施に加え、5つの学童保育所・放課後児童クラブ共通の安全管理マニュアルを整備し、職員へ周知徹底を図り、安全対策にも継続して努めました。また、一斉メール配信システムを活用した保護者への迅速かつ有効的な連絡体制の構築を図りました。

平成 31（令和元）年度、開所時間帯による保育料金の統一や登録方法の見直しを行いました。大きな混乱もなく遂行できました。保育料滞納者や滞納予防への対応については慎重に検討を重ね、改善に向けて取り組みます。

#### (5) 子育て広場

県外からの転勤者家族や乳幼児を持つ保護者にとってのつながりの場として利用や、育児の孤立感や子育てに対する不安の解消を求めている利用など、多種多様な利用のニーズがある子育て広場においては、来館者が安心して利用できる環境づくりに継続して取り組みました。

専門機関と連携し相談事業の拡充を図り、子育てに関する不安や悩みへの個別対応や子育て支援情報の提供に加え、乳幼児親子を対象とした講座の開催を通じて利用される親子が楽しく遊べる居場所づくりや親同士の関係づくり、仲間づくりを支援しました。

## 7. 苦情報告

平成 31(令和元)年度の苦情の件数は 264 件で、平成 30 年度と比較すると 17 件の増となりました。部門別では「通所介護」が前年比+34 件増加し、「訪問介護」「居宅支援」は減少しました。ミスに対して相手が望む気持ちを苦情・要望として受け止めることで件数増加に至る部分ではありますが、同じようなミスを繰り返さないように努めました。

苦情の内容としては、「通所介護」「障がい施設」では衣類などを他の利用者に入れてしまう荷物の入れ間違いや送迎時間が予定より早かったり、遅かったりなどで苦情となるケースが多くありました。また、「居宅支援」ではサービス調整の変更やキャンセルを事業所に連絡が遅れたり、忘れるなどのケースがありました。

苦情解決は、サービスの質の向上に寄与するものとしてより適切な対応が求められるものになります。「接遇マニュアル」の活用や「コンプライアンス」の意識付けに取り組みながら、今後も要望レベルである「利用者の声」を大切にするとともに、平成 31(令和元)年度行った「福祉サービス利用者満足度」の結果を検証し、質の良いサービスの提供、職員の指導や技術向上に取り組みサービスの質の向上につながるように努めることとしました。

なお、第三者委員との話し合いを求める苦情等はありませんでした。

< 苦情件数 >

(上段：件数、下段：実人数)

年 度	事務局・老セン	通所介護	訪問介護	居宅支援	訪問入浴	特別養護老人ホーム	短期入所	グループホーム	障がい施設	児童館・学童保育所・保育園	地域包括支援センター	福祉センター	合計
29	6	98	20	37	0	4	15	0	25	22	5	0	232
	6	85	19	37	0	4	13	0	22	21	4	0	211
30	2	93	24	50	1	7	15	1	36	16	1	1	247
	2	87	22	45	1	7	12	1	31	16	1	1	226
31(R1)	1	127	17	46	0	8	15	0	37	13	0	0	264
	1	106	17	44	0	7	15	0	31	9	0	0	230